

証券コード 6524

クオリティ企業をめざして

# 2025年12月期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と  
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

湖北工業株式会社  
2026年2月12日

# 目次

I. 業績動向、中期計画のまとめ .....	P. 2
II. 2025年12月期・2026年12月期の業績 .....	P. 6
III. 中期計画・成長戦略 .....	P. 21
IV. セグメント別の状況（リード端子） .....	P. 33
V. セグメント別の状況（光部品・デバイス事業） .....	P. 38
VI. 参考情報 .....	P. 44

# I. 業績動向、中期計画のまとめ

# 業績動向のハイライト

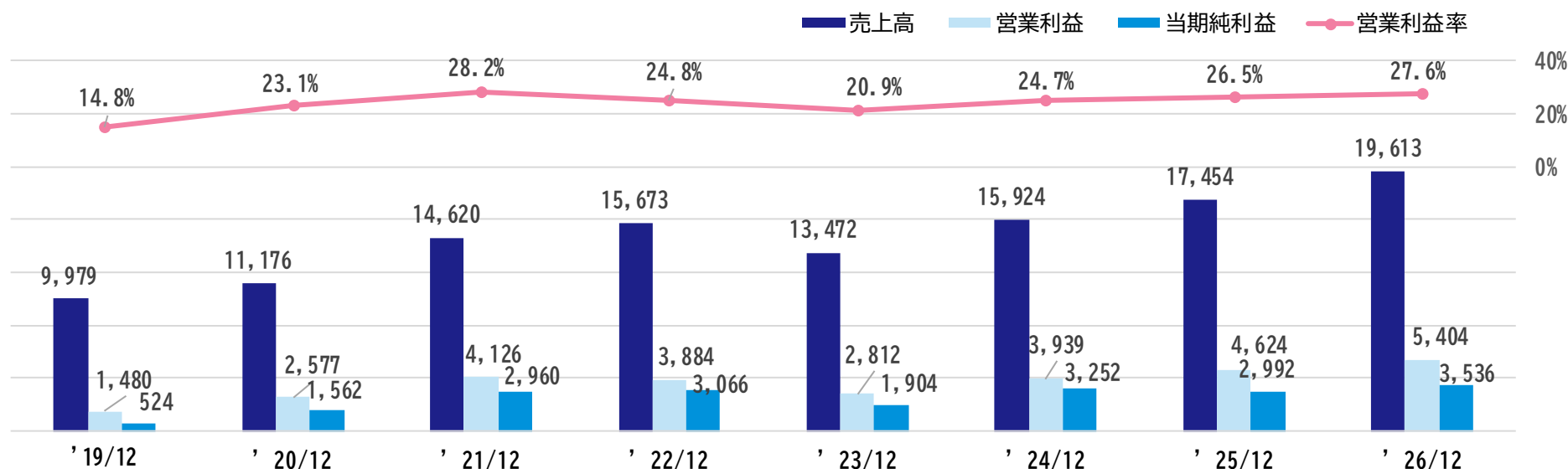
## <業績概要>

- ・ 2025年の業績は前期比で売上が +9.6%、営業利益は +17.4%となり過去最高の売上と営業利益を更新、2026年についても増収増益の計画
- ・ リード端子は、市場回復が緩やかな中で改善継続、光部品・デバイスが市場の追い風もあり売上拡大が続く
- ・ 当期純利益は、為替差損の発生(2024年末時点158.17円に対して円高で推移)とエピフォトンクス社に関するのれん等減損損失の計上により前期比 △8.0%の減益

## <事業環境>

- ・ 海底ケーブル市場は、順調なプロジェクト投資を背景に光デバイスの好調な受注が継続
- ・ 自動車関連市場では、欧州・日本市場は厳しい状況が続いたが中国での自動車生産が増加し、リード端子の売上は回復傾向
- ・ 情報通信インフラ市場では、生成AI/データセンタ市場が好調、両事業に対してプラスの影響
- ・ 高純度石英ガラス事業の引き合いが増加、量産化に向けた準備段階入り

## 売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率（百万円、%）



# 2028年までの中期計画

主力2事業の成長と新規事業を加え、売上1.4倍、営業利益1.7倍を目指す

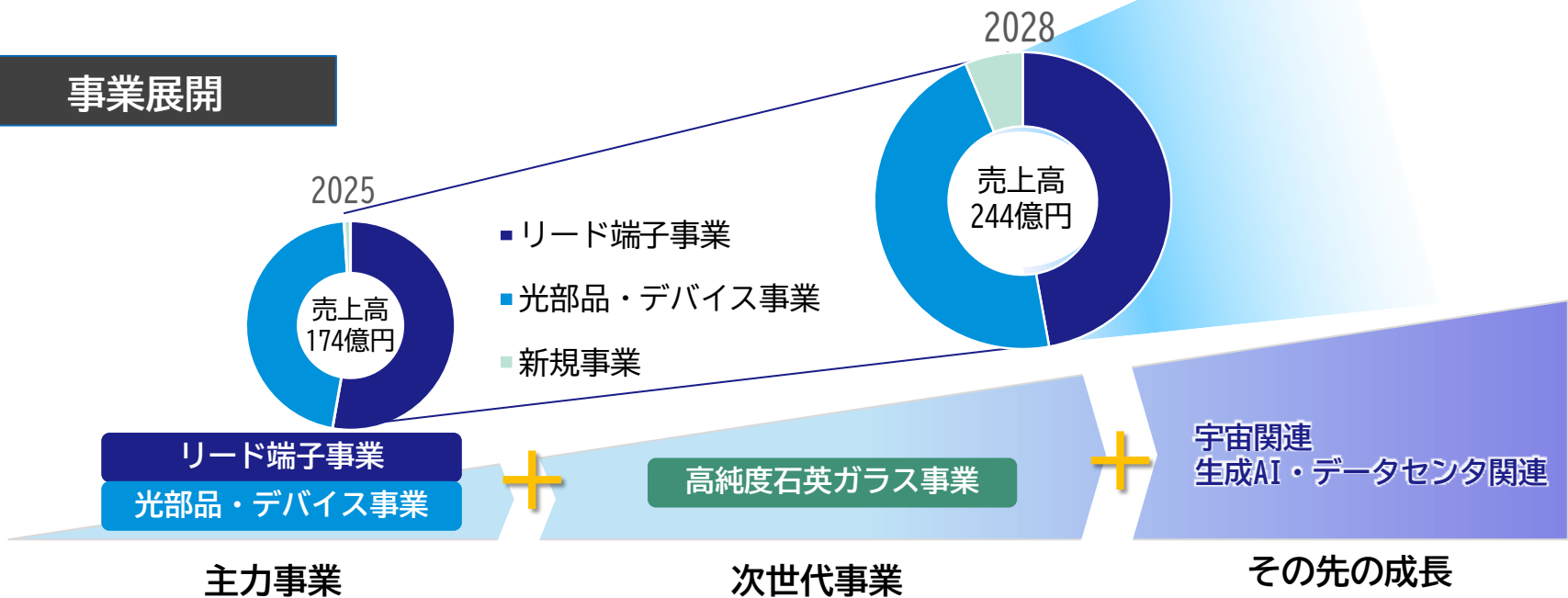
		2025.12期 実績	2028.12期 中期経営計画
成長性	売上高	174億円	244億円
収益性	営業利益	46億円	79億円
投資	設備投資	3年間の累計 約43億円	今後3年間で約80億円 (米原駅前新拠点43億円)
効率性	ROIC	15.0%	17.5%
	ROE	12.8%	17.3%
株主還元方針		連結配当性向：30%目標 D0E：3%以上	連結配当性向：30%目標 D0E：3%以上

# 目指す姿・事業ポートフォリオの考え方

## 経営理念

「豊かな個性を尊重する全員参加型の経営を実践し、  
新しい価値の創造を通じて、オンリーワン企業を目指す」

## 事業展開



経営体制 の強化	ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部管理体制を引き続き強化、サステナビリティ活動推進</li> <li>● プライム市場に向けた体制強化</li> </ul>
	米原新拠点構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第一期工事：2026年末着工（予定）、2028年完成予定</li> <li>● 長期成長のハブ拠点として位置付け</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員のモチベーションアップ、業績意識の向上ほか</li> <li>● グローバル市場に向けた営業体制を強化</li> </ul>

## Ⅱ. 2025年12月期・2026年12月期の業績

# 損益計算書(4Q累計)の概要

主力2事業ともに大きく回復し、前期比+9.6%の増収、同+17.4%の営業増益

(単位：百万円)

## <前期比較>

2024年12期	2025年12期		
4Q累計	4Q累計	前年比	
(1月-12月)	(1月-12月)		

売上高	15,924	17,454	+1,529	+9.6%
リード端子事業	8,403	8,802	+398	+4.7%
光部品・デバイス事業	7,520	8,651	+1,131	+15.0%
売上総利益	6,884	7,611	+726	+10.6%
販売費及び一般管理費	2,944	2,987	+42	+1.4%
営業利益	3,939	4,624	+684	+17.4%
営業利益率	24.7%	26.5%	+1.8pt	—
リード端子事業	403	766	+362	+90.0%
光部品・デバイス事業	3,536	3,857	+321	+9.1%
経常利益	4,856	4,547	△308	△6.4%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	3,252	2,992	△259	△8.0%
為替レート (期中平均)	151.69円/\$	149.62円/\$		

## <四半期比較>

2025年12期				
1Q	2Q	3Q	4Q	直前四半期比
(1月-3月)	(4月-6月)	(7月-9月)	(10月-12月)	

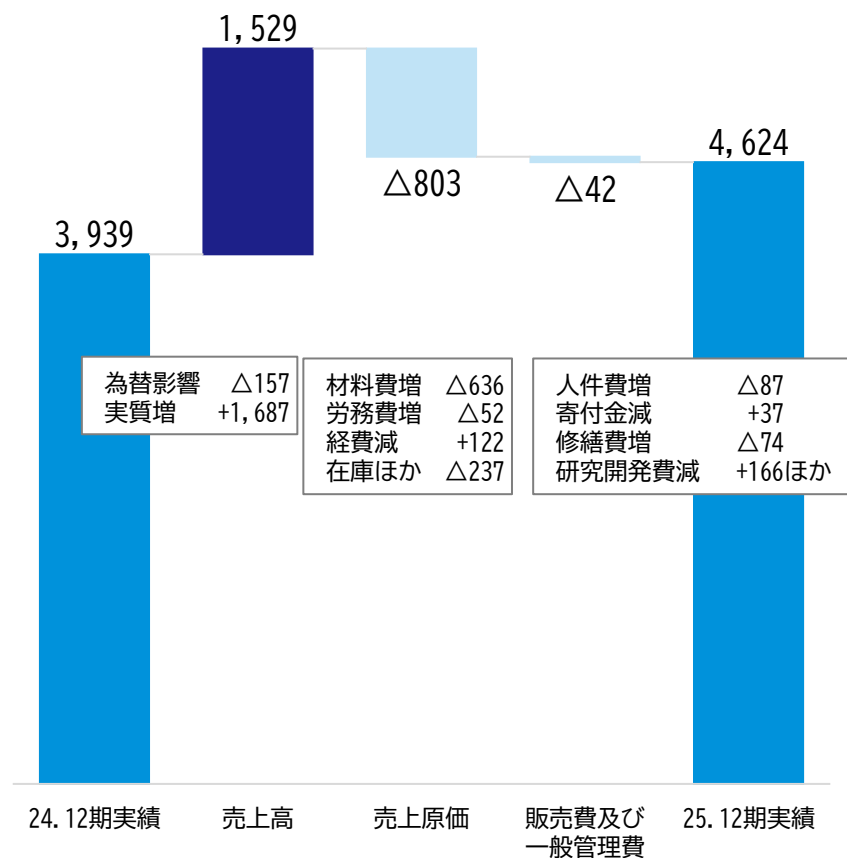
3,558	4,316	4,604	4,973	+368	+8.0%
1,978	2,171	2,209	2,442	+232	+10.5%
1,580	2,144	2,395	2,531	+136	+5.7%
1,398	1,854	2,116	2,241	+124	+5.9%
728	712	731	815	+84	+11.5%
670	1,141	1,385	1,425	+40	+2.9%
18.8%	26.5%	30.1%	28.7%	△1.4pt	—
114	228	212	210	△2	△1.0%
555	913	1,172	1,215	+42	+3.6%
301	996	1,529	1,720	+191	+12.5%
227	376	1,149	1,237	+88	+7.7%
152.56円/\$	144.60円/\$	147.46円/\$	154.09円/\$		

# 営業利益(4Q累計)の増減要因

前期比

(単位：百万円)

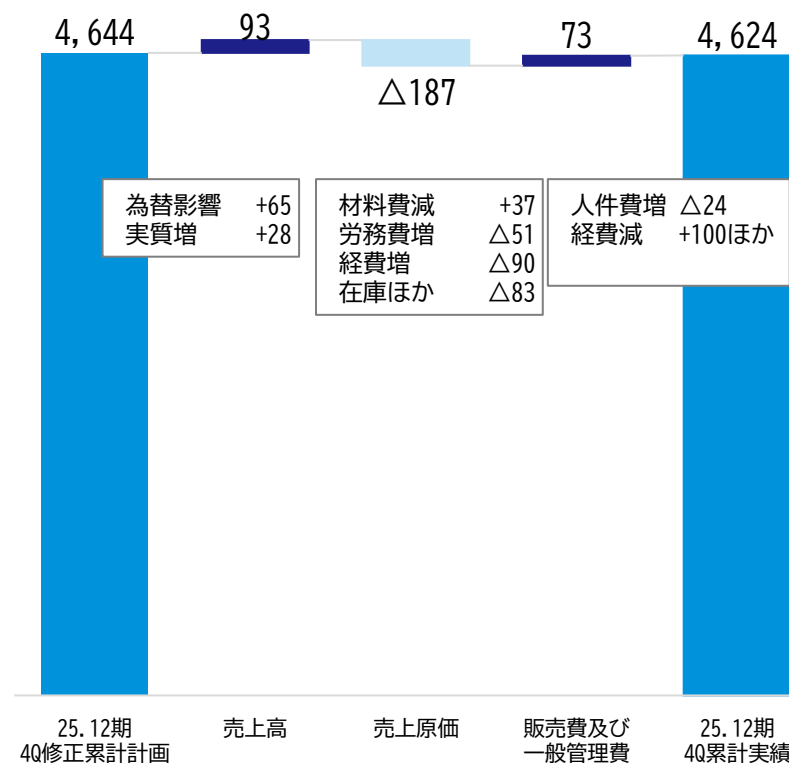
売上の増加がコストアップを吸収し、増益



修正計画比

(単位：百万円)

25年8月時点の計画に対し、ほぼ計画線で着地



# 貸借対照表 / キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)

貸借対照表	24年12期末	25年12期末	増減額	主な増減内容
流動資産	18,331	17,027	△1,303	売掛金 +1,130、現金及び預金 △809、有価証券 △1,400ほか
固定資産	10,353	11,291	+938	投資有価証券 +1,096、工具器具備品（純額）+178、のれん △291ほか
資産合計	28,684	28,319	△365	
流動負債	2,945	2,584	△360	一年内返済予定の長期借入金 △208、未払法人税等 △463、買掛金+261ほか
固定負債	2,309	2,293	△15	繰延税金負債 +20、リース債務 △40ほか
負債合計	5,254	4,877	△376	
純資産合計	23,430	23,441	+11	利益剰余金 +2,182、資本剰余金 △2,261、為替換算調整勘定 +216、自己株式 △211ほか
負債・純資産合計	28,684	28,319	△365	

キャッシュ・フロー計算書	24年12月期	25年12月期	25年12月期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	3,836	3,343	税金等調整前当期純利益 4,387、減価償却費 973 法人税等の支払額 △1,861
投資キャッシュ・フロー	△3,115	△1,197	定期預金の払戻による収入 1,083 有形固定資産の取得による支出 △781 投資有価証券の取得による支出 △1,266
フリーキャッシュ・フロー	721	2,146	
財務キャッシュ・フロー	△1,636	△3,646	自己株式の取得による支出 △2,490、配当金支払 △809
現金及び現金同等物の増減額	△639	△1,381	
現金及び現金同等物の期末残高	9,779	8,417	

# 2026年12月期業績の見通し

引き続き主力2事業部門の業績改善により、3年連続の増収増益を見込む

(単位：百万円)

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2025年12月期	2026年12月期（計画）				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	17,454	9,275	10,338	19,613	+2,159	+12.4%
リード端子事業	8,802	4,911	5,445	10,356	+1,554	+17.7%
光部品・デバイス事業	8,651	4,364	4,892	9,257	+605	+7.0%
営業利益	4,624	2,466	2,938	5,404	+780	+16.9%
営業利益率	26.5%	26.6%	28.4%	27.6%	+1.1pt	-
リード端子事業	766	469	655	1,125	+358	+46.8%
光部品・デバイス事業	3,857	1,996	2,282	4,279	+421	+10.9%
経常利益	4,547	2,287	2,960	5,247	+700	+15.4%
親会社株主に帰属する 当期（中間）純利益	2,992	1,571	1,964	3,536	+543	+18.2%
1株当たり当期純利益（円）	114.73	60.67	75.84	136.51		
為替レート（期中平均）	149.62円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

## ● 業績予想の根拠

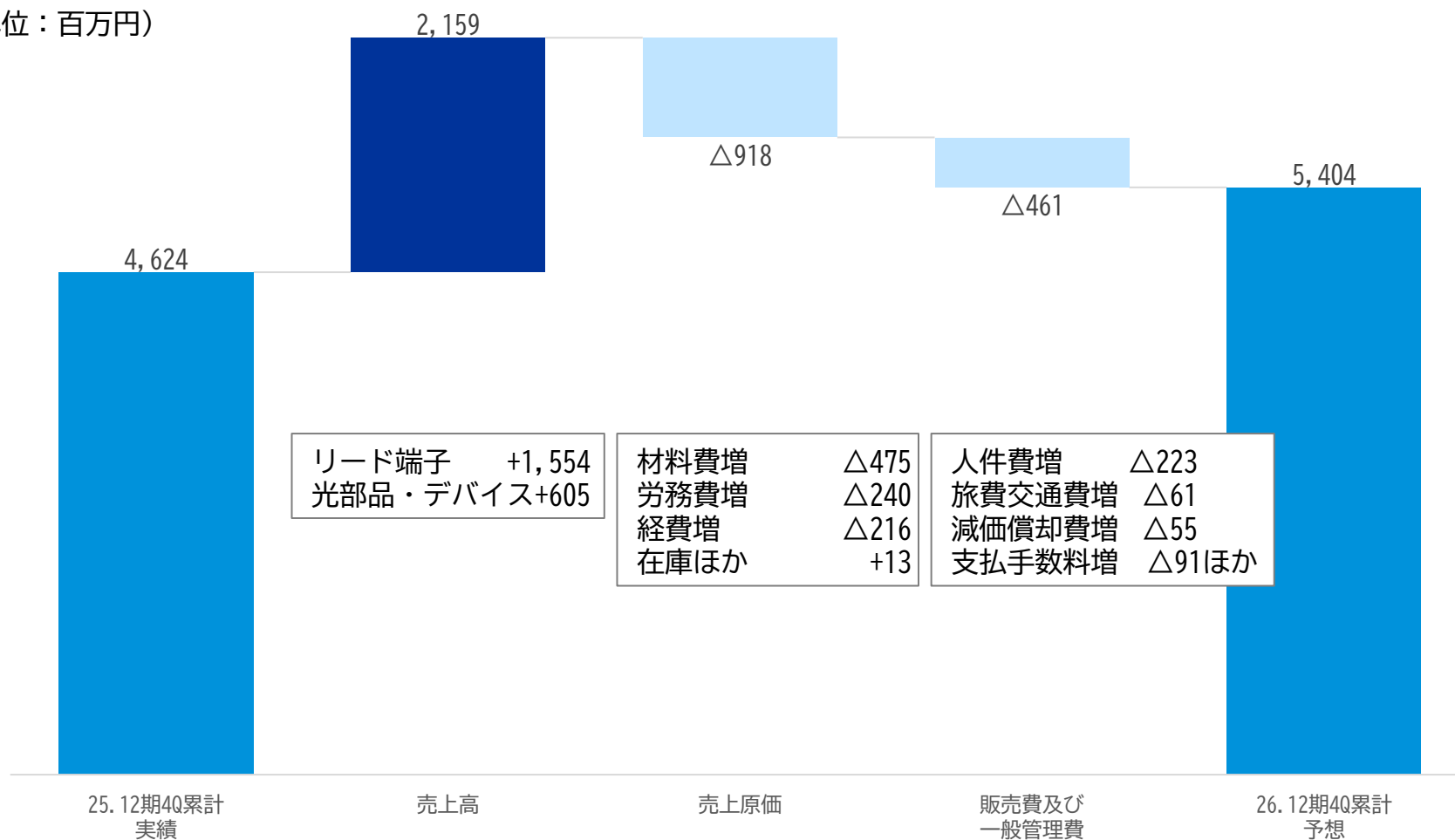
- ・ リード端子事業は、生成AI/データセンタ向けの需要増とさらなる収益改善により、大幅増収増益を見込む
- ・ 光部品・デバイス事業の売上は一ケタの増収、新製品切替への端境期だが安定的な増収増益を見込む

※＜為替感応度＞は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値です

# 2026年12月期業績(営業利益)の見通し

リード端子、光部品・デバイスの主力2事業が売上増と営業増益に貢献

(単位：百万円)



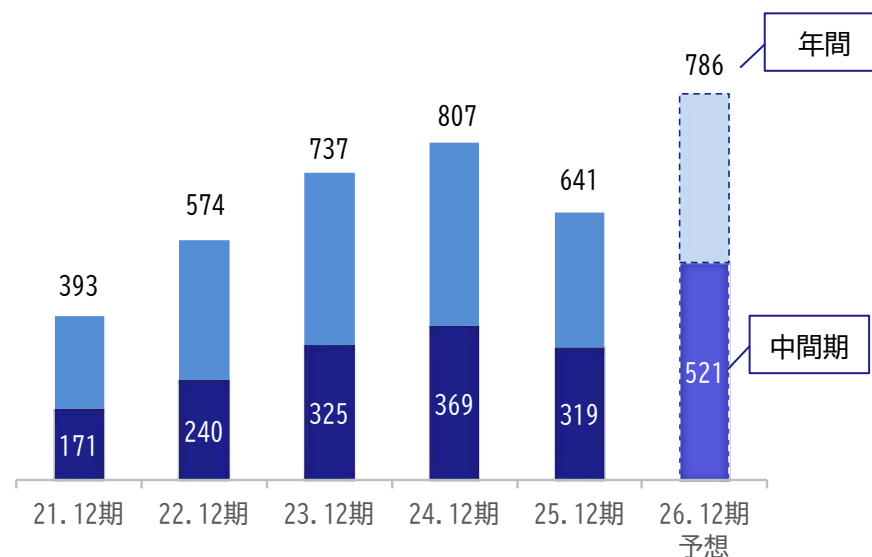
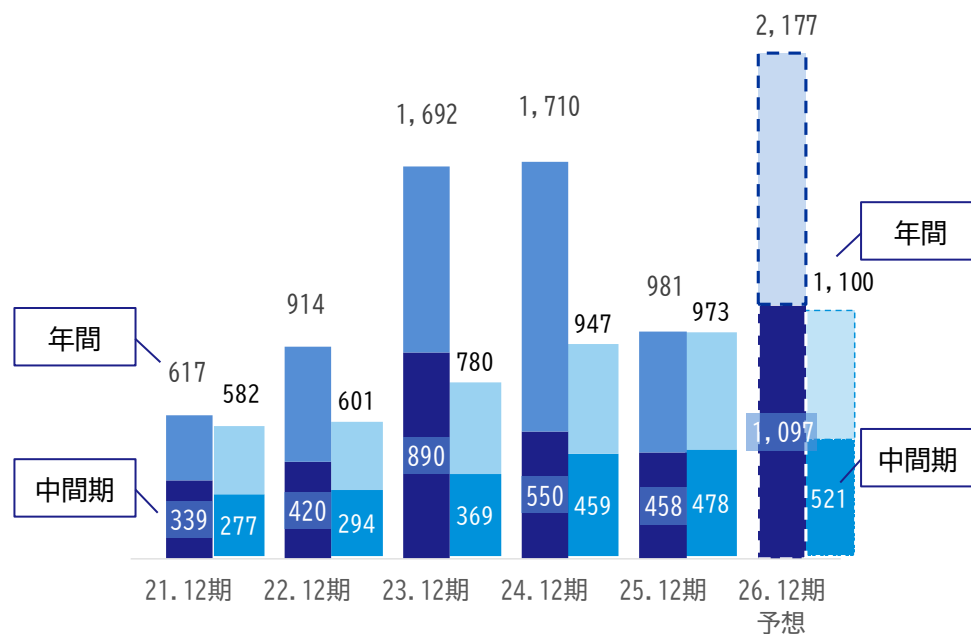
# 設備投資額・減価償却費(4Q累計)

ファラデー回転子向け結晶育成炉、高純度石英ガラス焼結炉等成長分野に重点投資  
26年の投資計画に米原事業所建設費6億円弱を含む

設備投資額・減価償却費（百万円）

研究開発費（百万円）

設備投資額 減価償却費



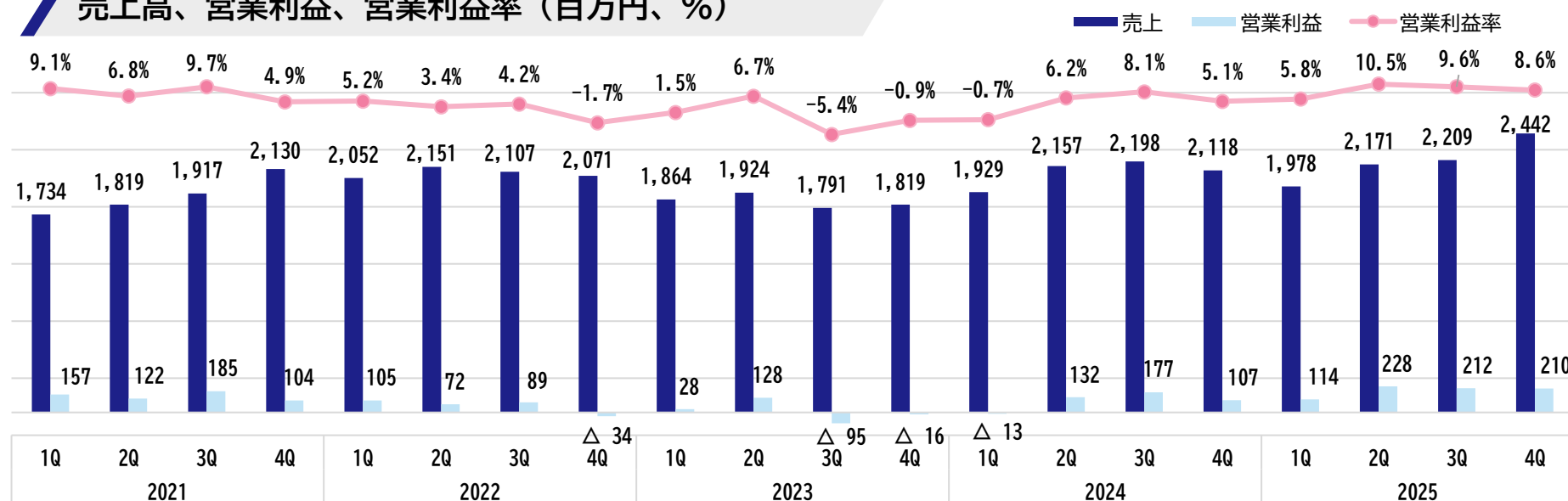
## セグメント別業績（4Q累計） - リード端子

- ・1Qを底に、自動車・データセンタ市場など向けに売上は回復トレンドが継続
- ・売上の回復に加えて生産体制の再編や生産効率改善活動の継続により営業利益は大幅増加

(単位：百万円)

	<前期比較>				<四半期比較>					
	2024年12月期 4Q累計 (1月-12月)	2025年12月期			1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (10月-12月)	直前四半期比	
		4Q累計 (1月-12月)	前年比							
売上高	8,403	8,802	+398	+4.7%	1,978	2,171	2,209	2,442	+232	+10.5%
営業利益	403	766	+362	+90.0%	114	228	212	210	△2	△1.0%
営業利益率	4.8%	8.7%	+3.9pt	—	5.8%	10.5%	9.6%	8.6%	△1.0pt	—

## 売上高、営業利益、営業利益率（百万円、%）

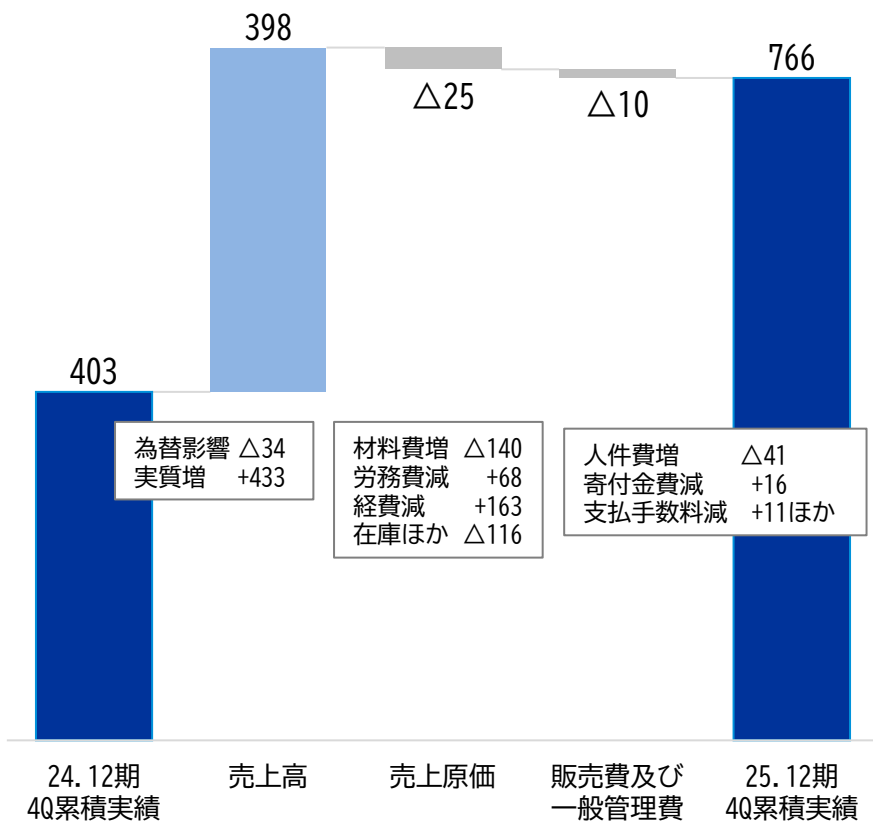


# 営業利益(4Q累計)の増減要因- リード端子

前期比

(単位：百万円)

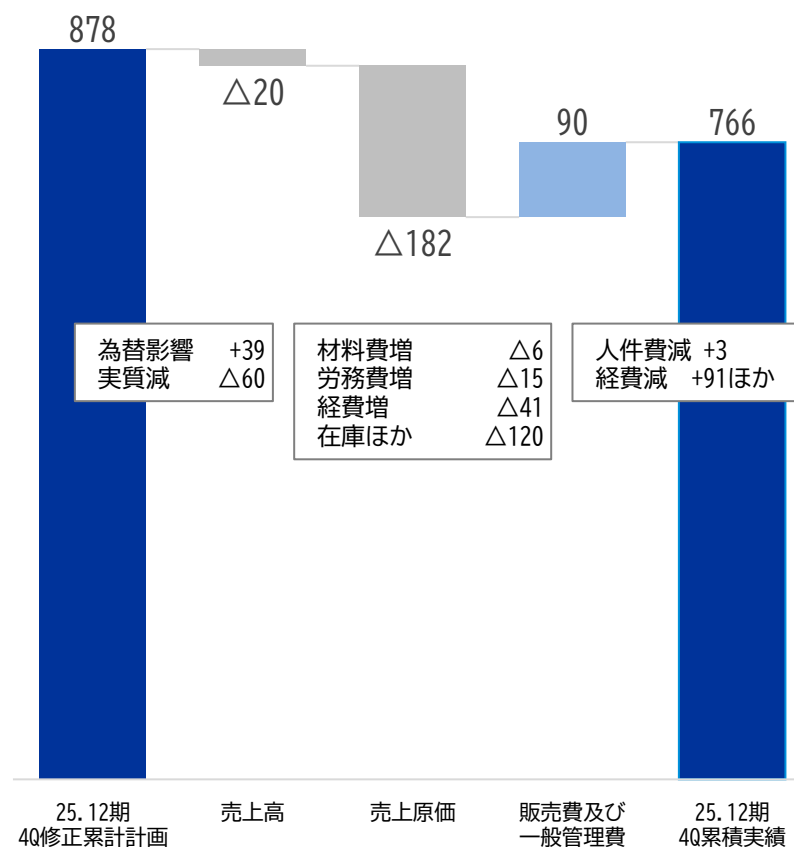
売上の回復と固定費削減により営業利益は大幅改善



計画比

(単位：百万円)

海外拠点で経費等の計画比増により、若干の未達



# リード端子事業の見通し

自動車関連市場、生成AI/データセンタ市場向けに拡販強化。製造面ではOEE（設備総合効率）を改善し、増収増益を目指す

## セグメント業績

（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期（通期）				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	8,802	4,911	5,445	10,356	+1,554	+17.7%
営業利益	766	469	655	1,125	+358	+46.8%
営業利益率	8.7%	9.6%	12.0%	10.9%	+2.2pt	—

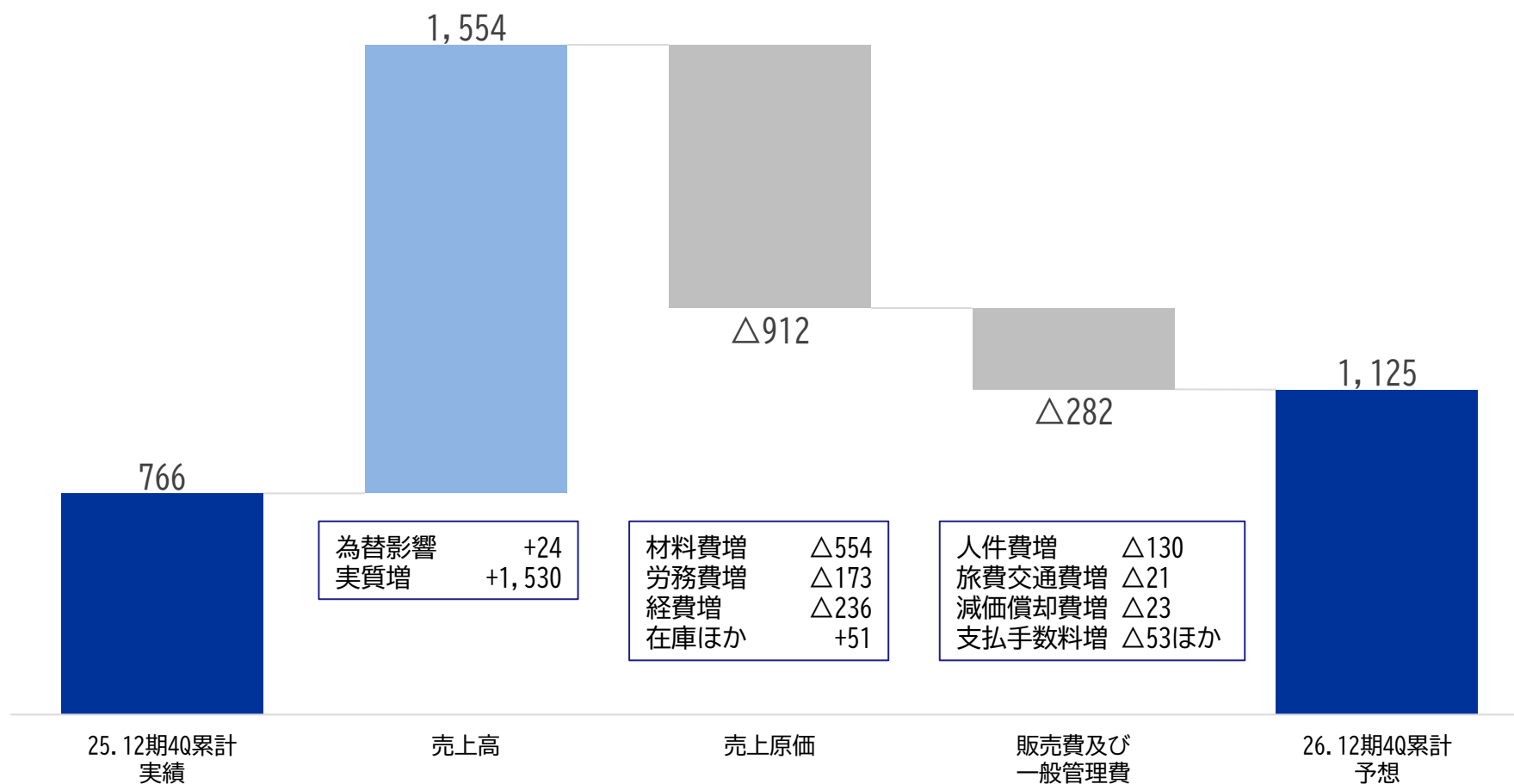
## 2026年12月期の見通し

- 自動車市場向け、AIサーバー向けなどにハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサの生産がグローバル（中国、アセアン）で大きく伸びる見込み
- 高付加価値リード端子の売上増加に加えて、グローバル市場でのボリュームゾーンの数量増加を見込む
- 漏れ電流対策品、レーザー溶接品等新商品のラインアップ強化を急ぐ

# セグメント別営業利益の増減要因（予想） - リード端子

市場回復と新製品売上拡大、効率改善により、増収増益を見込む

（単位：百万円）

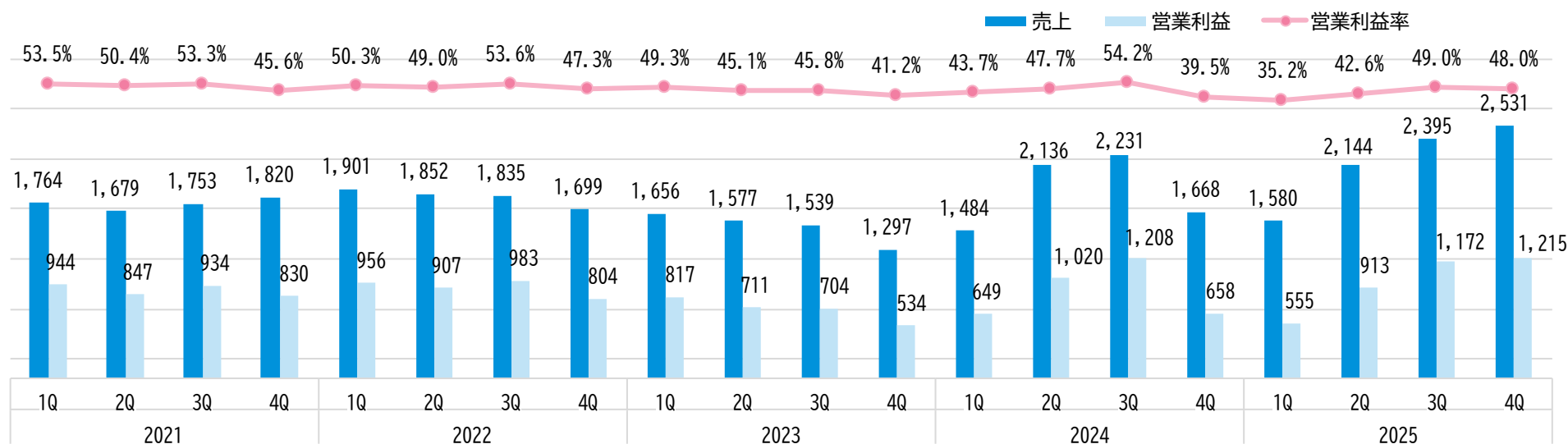


## セグメント別業績(4Q累計) - 光部品・デバイス

2Q以降売上は増加傾向。3Q、4Qは想定以上の売上増となった

	<前期比較>				<四半期比較>						(単位：百万円)	
	2024年12月期 4Q累計 (1月-12月)	2025年12月期 4Q累計 (1月-12月)	2025年12月期 前年比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	2025年12月期 3Q (7月-9月)	2025年12月期 4Q (10月-12月)	直前四半期比			
売上高	7,520	8,651	+1,131	+15.0%	1,580	2,144	2,395	2,531	+136	+5.7%		
営業利益	3,536	3,857	+321	+9.1%	555	913	1,172	1,215	+42	+3.6%		
営業利益率	47.0%	44.6%	△2.4pt	—	35.2%	42.6%	49.0%	48.0%	△1.0pt	—		

## 売上高、営業利益、営業利益率 (百万円、%)

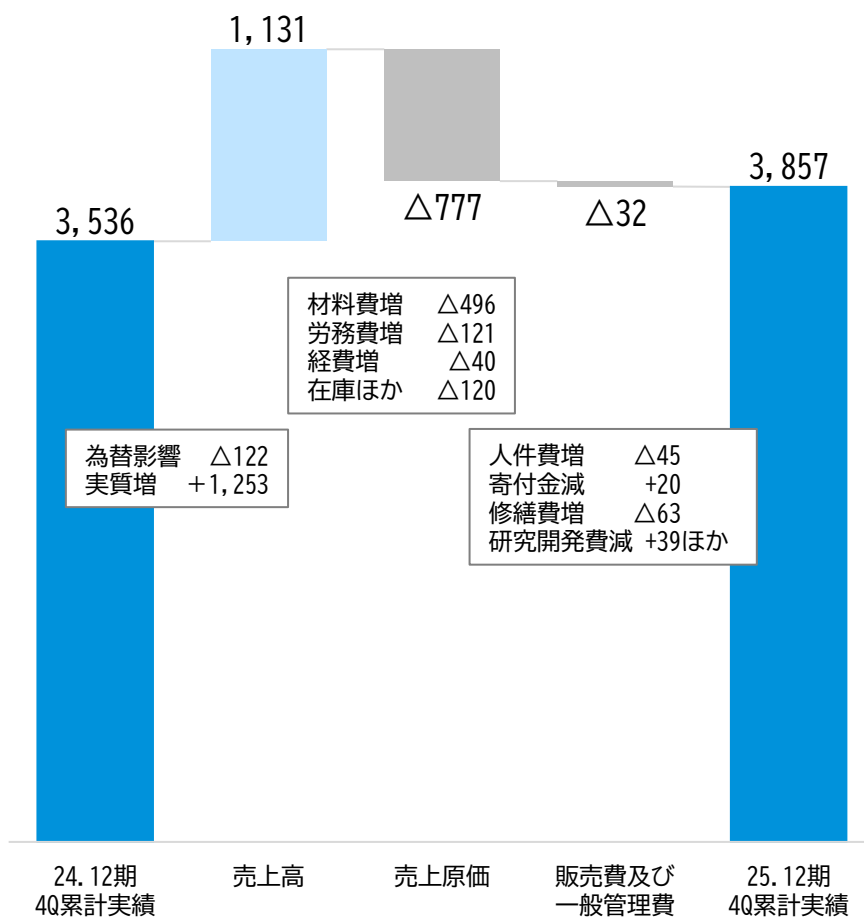


## 営業利益(4Q累計)の増減要因

前期比

(単位：百万円)

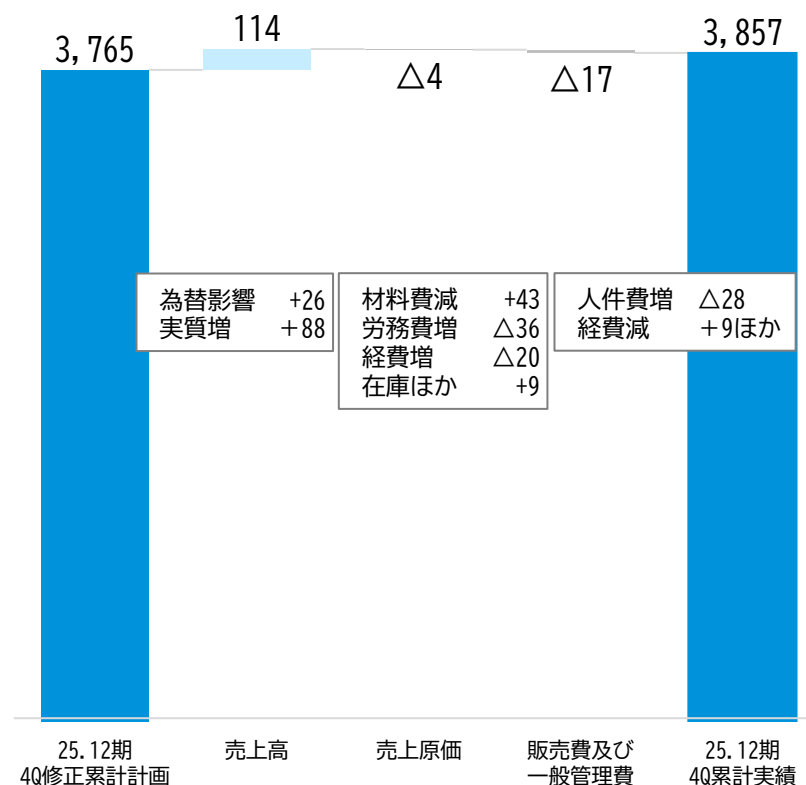
売上の増加が、材料費ほかコストアップを吸収し、増益確保



計画比

(単位：百万円)

売上・利益ともほぼ計画通りに進捗



# 光部品・デバイス事業の見通し

1Qに一部顧客で若干の在庫調整を想定、その他顧客及び2Q以降は売上回復の見込み

## セグメント業績

(単位：百万円)

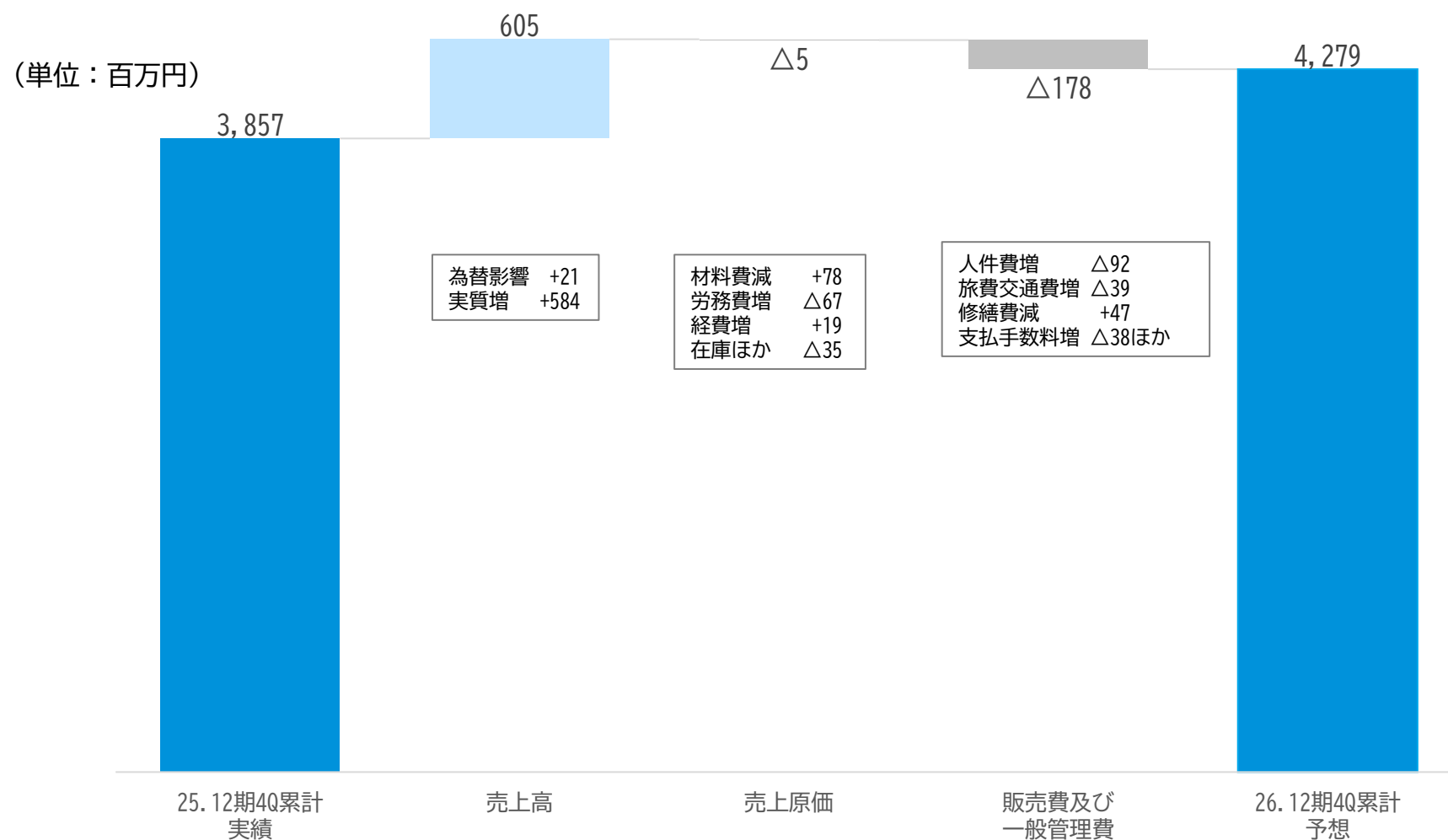
		2025年12月期	2026年12月期（通期）				
		実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高		8, 651	4, 364	4, 892	9, 257	+605	+7. 0%
営業利益		3, 857	1, 996	2, 282	4, 279	+421	+10. 9%
	営業利益率	44. 6%	45. 7%	46. 7%	46. 2%	+1. 6pt	—

## 2026年12月期の見通し

- 海底ケーブル向け光デバイスの需要は、複合光デバイスへの移行に伴い1Qに一部顧客で在庫調整の可能性あり、年間では順調な伸びを見込む
- 2026年は小型アイソレータの売上が大幅増加予定。新製品は、複合品の売上が春から徐々に売上計上予定
- AIサーバー向け光部品は需給ひっ迫が続く見通し、光部品の売上大幅増を見込む
- レアアースの需給ひっ迫に対応し、材料在庫の確保と調達ルートが多様化を進める

# セグメント別営業利益の増減要因（予想） - 光部品・デバイス

売上の増加に伴い、営業増益の予定



## Ⅲ. 中期経営計画・成長戦略

# 中期経営基本方針

## 経営ビジョン

オンリーワン企業の実現に資する研究開発、技術開発等を遂行していき、高収益事業を構築していく

## 中期経営基本方針

- 市場開拓による事業規模の拡大
- 構造改革による収益力の強化
- 新たな GNT（グローバルニッチトップ）事業の創出
- 未来を担う人材の育成
- グローバル経営管理体制の強化

### 次世代事業

コア技術を活用して育成

### 成長事業

シェア拡大と新製品開発を実現

### 基盤事業

収益力強化を実現

コア技術：原材料からの一貫生産

コア技術：業界最高水準の量産技術

# 2025年12月期の振り返り

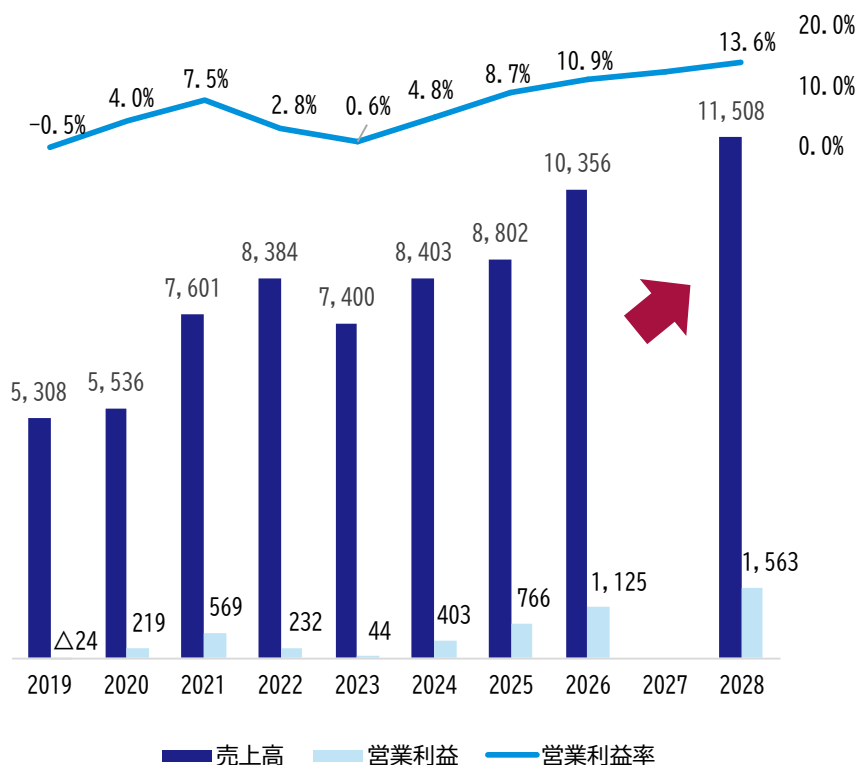
中期経営基本方針		重点施策	実施事項、目標KPI	2025年12月期の実績
リ ン グ ・ モ ー ト ー	市場開拓による 事業規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市場情報や顧客情報収集によるマーケティングの強化</li> <li>●既存品の価格は正および高付加価値品の販売強化</li> <li>●リード端子の高付加価値製品の開発</li> <li>●レーザー溶接を基軸としたコア技術新商品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自動車・生成AI/データセンタ、海外市場に重点を置いた事業の拡大</li> <li>●アジア地域での営業・拡販体制強化</li> <li>●バリレスの拡販（新設計アルミ電解コンデンサの採用強化）、漏れ電流向上対策品の増強と低抵抗品の販売強化による高付加価値製品販売比率目標 30%</li> <li>●レーザー溶接技術によるEDLC用、リチウムイオンキャパシタ用新製品を2026年量産開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自動車市場向け売上比率52%</li> <li>●海外売上高比率 (1Q 51.7%→4Q 52.9%に上昇)</li> <li>●高付加価値品売上比率19.6%</li> <li>●車載用ニッケルメッキ品開発 (2026年1Qサンプル出荷の予定)</li> </ul>
	構造改革による 収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工程の課題（切替・修理・チョコ停）解決によるOEE改善と原価管理の強化</li> <li>●品質ゼロディフェクトを目指した教育訓練の強化</li> <li>●材料品質確保の徹底</li> <li>●既存サプライヤーの支援・育成によるQCDSの向上</li> <li>●サプライヤーのマルチソース化推進</li> <li>●事業部門別ROIC改善への取り組みを強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製造原価比率改善（24年実績 79.5%→27年 71.2%）</li> <li>●歩留り向上・工程改善強化、切替ロスの削減等の施策により全工場での設備総合効率(OEE)改善（27年度 90%達成目標）</li> <li>●多能工化、IOT活用等による製造工程でのレベルアップ</li> <li>●技能伝承教育の強化による若手社員の育成</li> <li>●海外材料メーカーとの育成・指導を含めた品質水準底上げ、調達安定化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●25年製造原価比率 実績：75.8%</li> <li>●歩留り向上、工程改善、調整不良率削減によりOEEは24年:81.4%→25年:83.1%に改善</li> <li>●中国2工場の連携によりマレーシア工場の生産技術をレベルアップ</li> </ul>
光 部 品 ・ デ バ イ ス	市場開拓による 事業規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様への技術サポートを強化「顧客からパートナー」へ進化</li> <li>●新しいコア技術や応用分野の研究開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様との技術面での連携を強化し、価格戦略と合わせて市場シェアを60%以上に拡大</li> <li>●マルチコアファイバ化を見据えた研究開発</li> <li>●生成AI/データセンタ需要向け高速光スイッチ開発</li> <li>●宇宙分野（光デバイス）、生成AI/データセンタ市場（高速光スイッチ、光部品）を開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市場拡大に伴い一部競争激化の兆候</li> <li>●市場シェアは50%以上を維持</li> <li>●マルチコアファイバ用FIFOデバイス開発</li> <li>●PLZT単結晶ウェハ外販開始</li> <li>●宇宙分野向けハイパワー光アイソレータ開発</li> </ul>
	構造改革による 収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産の自動化による生産性向上</li> <li>●生産のマルチライン化による強靱化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2025年 光アイソレータ組み立て自動機（2号機）を導入</li> <li>●2025年：スリランカでの自動生産比率を80%に引き上げ、マルチライン化の体制作り</li> <li>●2026年：第2拠点の着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画通り稼働中</li> <li>●半自動機による生産量は目標達成済み</li> <li>●スリランカ情勢は沈静化、長期的視点で複数拠点化を検討</li> </ul>

# セグメント別の業績イメージ

リード端子事業は2027年以降は安定成長、光部品・デバイス事業は2027年以降伸び率が改善の見込み

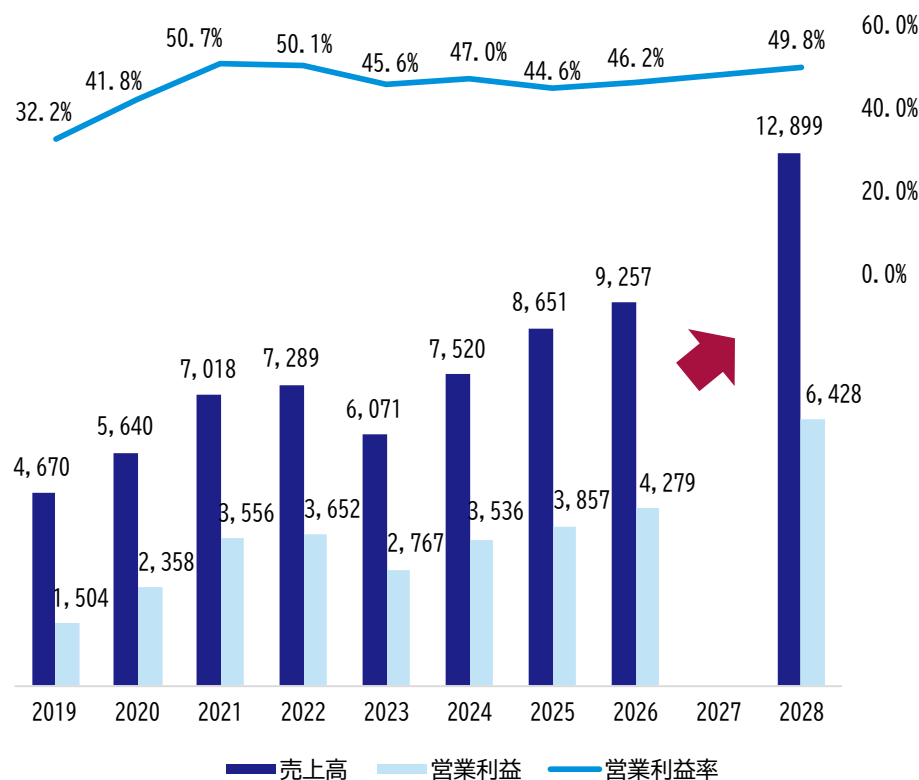
## リード端子事業

(単位：百万円)



## 光部品・デバイス事業(高純度石英ガラス事業等を含む)

(単位：百万円)



# 戦略・取組み（リード端子事業）

グローバル市場への取組みを強化し、重点市場におけるシェアをさらに拡大する

中期経営基本方針	重点施策	実施事項、目標KPI
市場開拓による 事業規模の拡大	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 車載及び生成AI/データセンタ市場向け新商品のグローバル売上の増加</li> <li>2. グローバル市場における顧客サポート強化とボリュームゾーン市場での市場シェア拡大</li> <li>3. 新商品売上比率目標 30%</li> <li>4. レーザー溶接の量産化とラインアップの強化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自動車・生成AI、海外市場に重点を置いた事業の拡大</li> <li>2. 材料を含めて市場のニーズに合わせコスト構造を最適化、マーケティング強化との相乗効果により、中国・アセアン地域での市場シェア拡大</li> <li>3. バリレスの拡販（新設計アルミ電解コンデンサ向け採用強化）、漏れ電流向上対策品の増強</li> <li>4. レーザー溶接技術による車載向けニッケルメッキ品を2026年量産開始</li> </ol>
構造改革による 収益力の強化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業部門別ROI改善への取組みを強化</li> <li>2. 可動率、調整不良率のさらなる改善によるOEE改善</li> <li>3. 原価管理システムの強化による価格管理、コストダウンの効率化</li> <li>4. マレーシア工場、中国2工場の連携強化による生産体制、顧客サポート体制の水準アップ</li> <li>5. 新商品開発及び生産技術開発の技術者育成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩留り向上・工程改善強化、切替ロスの削減等の施策により全工場での設備総合効率(OEE)改善（28年度 90%達成目標）</li> <li>2. 製造原価比率改善（25年実績75.8%→28年目標 70.7%）</li> <li>3. 多能工化、IoT活用等による製造工程でのレベルアップ</li> <li>4. 技能伝承教育の強化による若手社員の育成</li> <li>5. 海外材料メーカーとの育成・指導を含めた品質水準底上げ、調達安定化</li> </ol>

# 戦略・取組み（光部品・デバイス事業）

開発力、生産力を強化し、海底ケーブルの技術進化と需要増に応えるモノ作りを進める

中期経営基本方針	重点施策	実施事項、KPI
市場開拓による 事業規模の拡大	1. 海底ケーブル市場の技術進化に対応した新製品の開発加速  2. 光部品の生産能力増強による売上成長  3. 高純度石英ガラス製品の重要顧客からの認定取得による長期売上成長基盤の確立  4. 宇宙分野向け等光部品・デバイスの開発加速と売上計上	1-1 複合化・モジュール製品のラインアップ拡大 1-2 マルチコアファイバ用デバイスの開発及び拡販強化  2. 磁気光学部品のラインアップ強化と生産効率改善による売上・利益の成長  3. 半導体製造装置及び特殊ファイバ市場での拡販及び生産体制強化  4-1 宇宙分野向けに光アイソレータのハイパワー化推進 4-2 PLZT単結晶ウエハの外販拡大による認知度向上
構造改革による 収益力の強化	1. 生産量の増加に対応したサプライチェーン強靱化  2. 生産のマルチライン化による強靱化	1. ファラデー回転子の結晶育成の能力拡大、歩留まり向上  2-1 半自動生産設備を活用して生産能力増強、需要増に対応  2-2 レアアースなどの材料調達を強化、サプライチェーンの強靱化

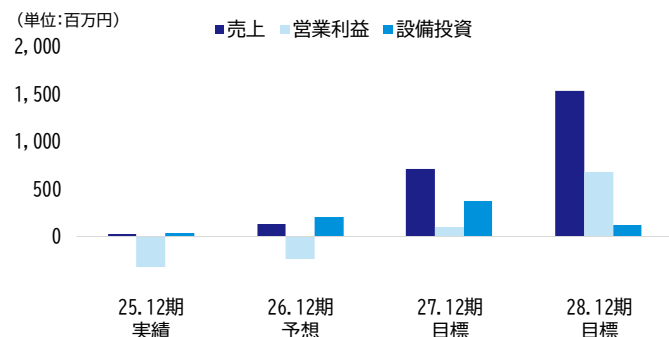
# 高純度石英ガラス事業の中期計画進捗状況

事業基盤を強化、中長期での売上成長トレンドを確立する

## <中期計画における実施事項、課題>

テーマ	課題、実施事項	2025年度進捗状況	2026年度の実施事項
開発力強化	金型設計、試作シミュレーション技術等のレベルアップによる開発期間の短縮 用途の多様化に合わせた形状ラインアップの拡大	半導体装置関連、レーザー関連、各種レンズ、特殊ファイバ用プリフォームなど形状サンプルのラインアップ拡大	開発リードタイム短縮による、開発能力アップ
営業、マーケティングの強化	グローバル顧客に対する営業体制強化 展示会出展、顧客技術サポート	海外営業推進室の設置など、グローバル拡販体制を強化 セミコンジャパンほか	グローバル営業部の設置、営業体制増強 Semicon West（サンフランシスコ）・OFC（ロサンゼルス）ほか海外を中心に展示会出展増加、販促資料充実
生産体制	焼結炉ほか生産設備増設 BCP体制構築	本社工場で生産能力増強に備えて付帯設備充実 止水対策ほか安定供給体制の強化	2026年大型焼結炉一基増設ほか、生産能力大幅増強

## <中期計画における業績目標>



## <現在の状況>

- 量産採用は、2025年当初計画と比較して1年程度延伸
- 半導体関連各社からの引き合いは順調に2次試作、3次試作へと進捗
- ファイバ関連メーカーから特殊ファイバプリフォームの引合い増加
- 重点分野は、
  - ①半導体関連、②光ファイバー用プリフォーム、③各種レンズ、④バイオメディカル

# 新たなGNT（グローバルニッチトップ）事業への取り組み

技術の連携により新たな分野を切り開き、長期的な成長を目指す。

## 光電融合、情報通信の大容量化・冗長化のトレンドに沿った 要素技術の拡大に取り組む

衛星通信

高度情報処理

次世代光通信

高効率電子部品

医療・産業機器

### レーザーシステム



2024年6月 資本参加

#### 主な開発テーマ、成果

- ・リード端子レーザー溶接技術開発
- ・衛星通信用レーザーシステム開発

#### 進捗状況

- ・リード端子のレーザー溶接技術の基礎開発を完了、本社での量産ライン開発中
- ・地上－衛星間通信など長距離衛星通信用レーザーシステム等市場リサーチ

### PLZTデバイス

#### ダイナミック光デバイス

EpiPhotonics

2024年4月 完全子会社化

#### 主な開発テーマ、成果

- ・PLZT高速光スイッチ、光変調器開発
- ・欧州生成AI用データセンタ向け光スイッチ

#### 進捗状況

- ・PLZT単結晶薄型ウエハの外販開始、複数社からの新規引き合いに対応中
- ・老朽化設備の更新中、米→日への生産移管を検討

### 宇宙通信向け光翻訳機等



2024年10月 資本参加  
2025年12月 追加出資

#### 主要技術

- ・異なる光通信端末を相互接続する光翻訳機開発
- ・光通信に特化した衛星コンステレーションのデジタルツインエミュレータ（DTS）の開発
- ・中軌道光中継システムの開発

#### 進捗状況

- ・ハイパワー光アイソレータ開発ほか新規引合い増加、開発・マーケティングを強化
- ・宇宙通信向けに、新たな協業を模索

# 米原駅前新拠点構想

第一期工事は2026年12月着工、2028年竣工予定



## <第一期工事の概要>

- 第一期工事は、オフィスビルとして建設
  - ✓ 省エネルギー、耐震構造等サステナビリティに配慮
  - ✓ レストランの併設等一般の方にも一部開放、地域との共生をはかり、街づくりにも貢献する
- 第二期工事では開発・製造技術拠点として建設の予定
- 敷地面積13,765m<sup>2</sup>

## ● 新幹線利用で通勤可能な範囲が大幅に拡大

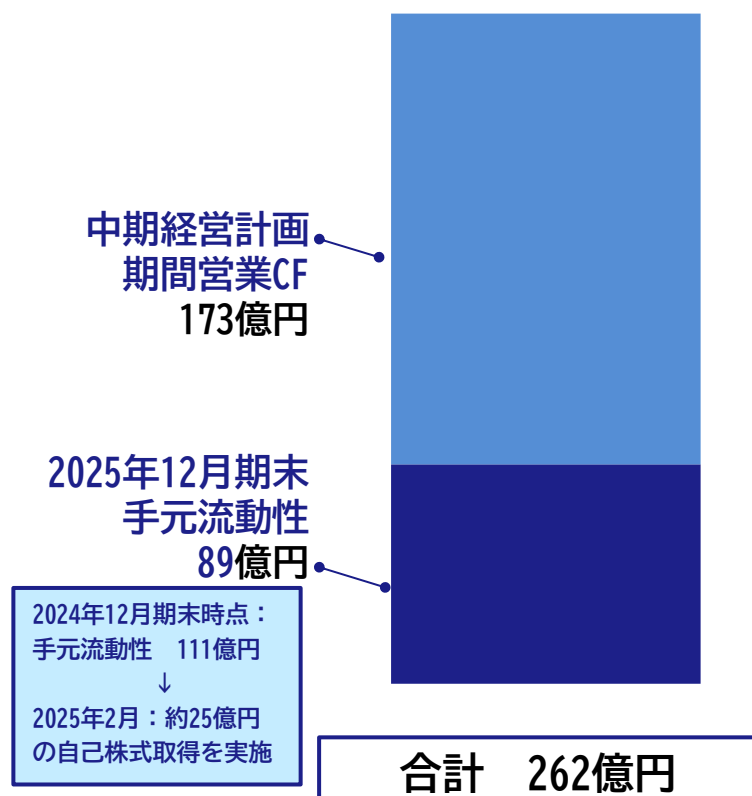
新幹線利用により、兵庫県～静岡県  
まで約1時間の通勤圏内



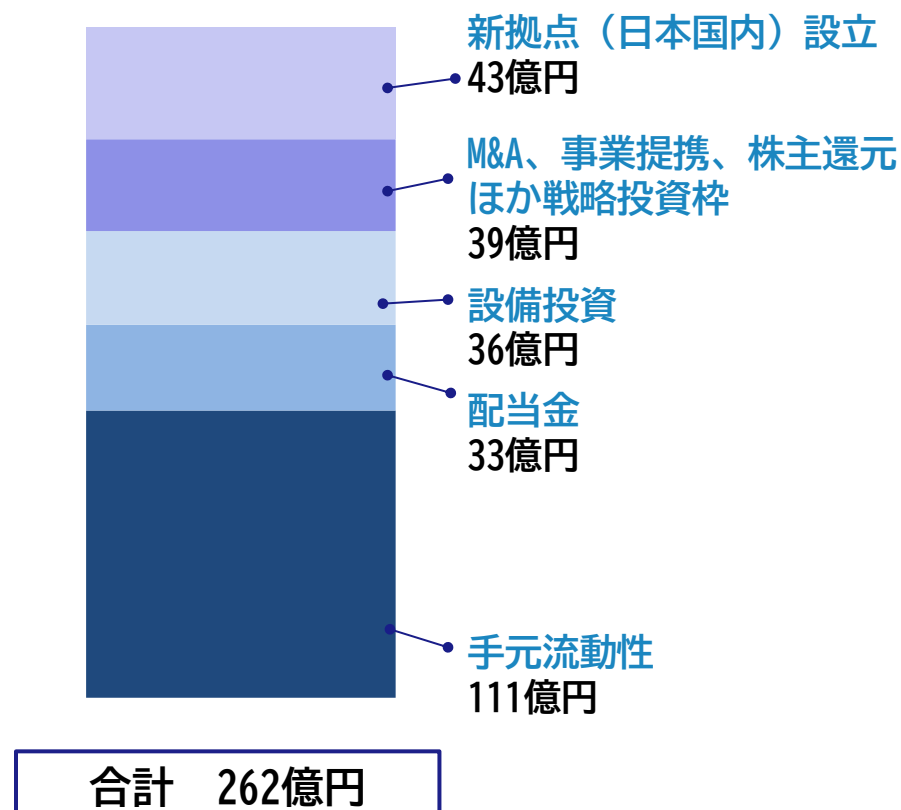
# 中期計画におけるキャピタルアロケーション

手元流動性は2024年末（111億円）の水準を維持、事業で獲得した資金は成長投資、株主還元に分け

## 原資



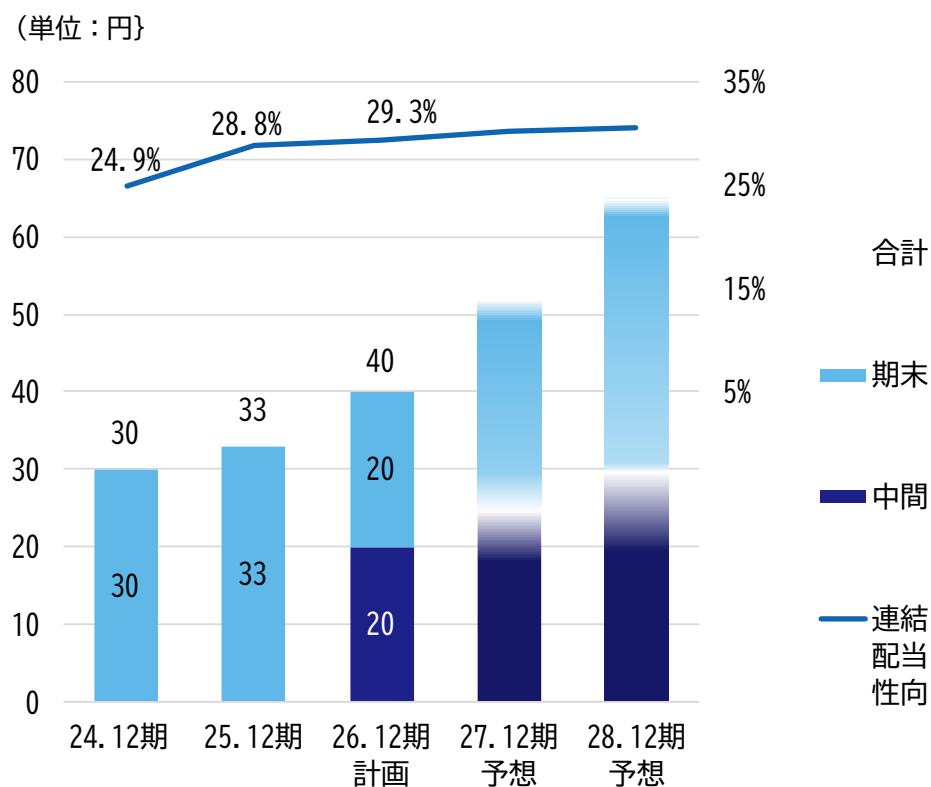
## 活用



# 株主還元方針

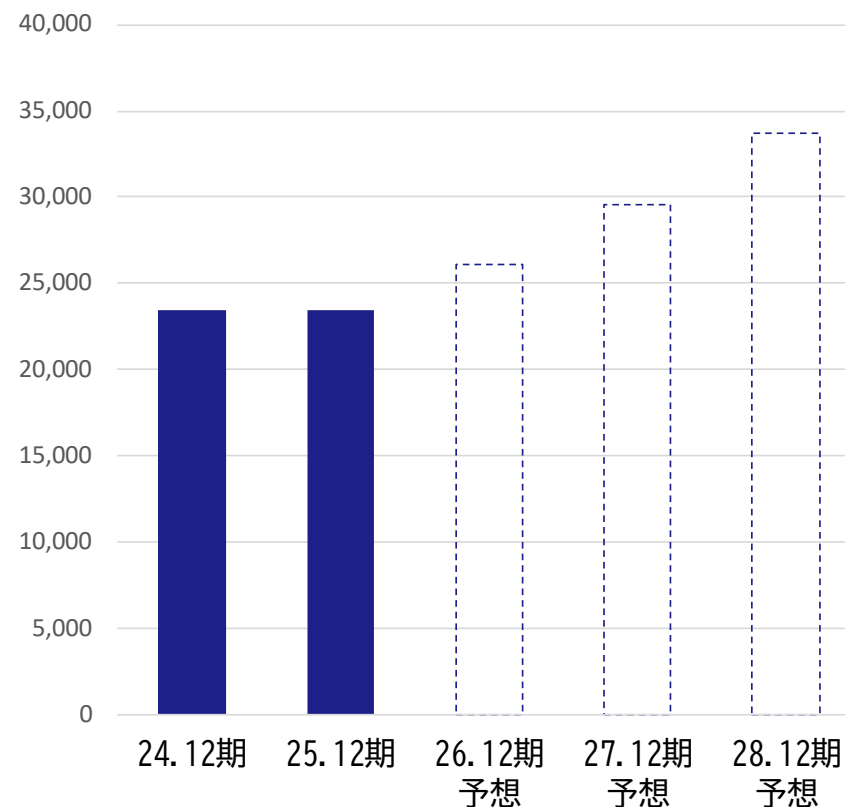
- ① 連結配当性向は、引き続き30%を目標とする
- ② 併せて、安定配当のニーズを踏まえ、D0E3%以上を基準とする

## 配当金の推移



27年以降は業績動向を考慮して今後検討

## 自己資本の推移（百万円）



# サステナビリティ

## 環境・社会・ガバナンス各WGごとにマテリアリティ設定、継続的な活動が続ける

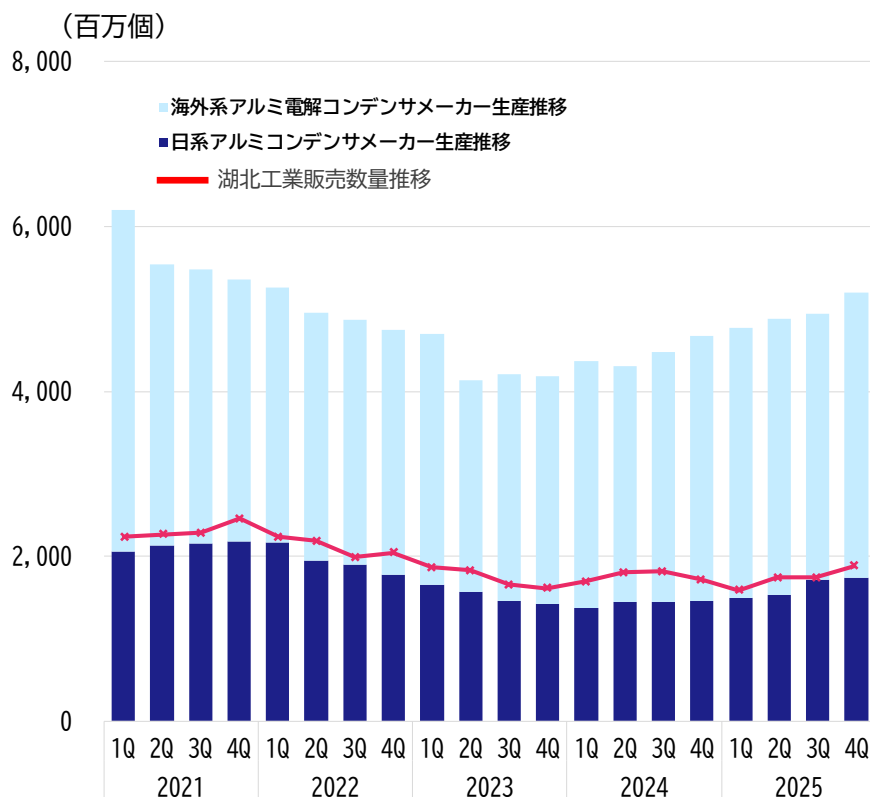
	マテリアリティ	進捗状況及び主な活動内容	ワーキンググループ 開催状況
環境WG	気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●湖北工業グループの環境改善活動計画策定 →不良率削減、原材料及び間接材料使用量削減、物流効率化等への取組みを実施</li> <li>●SCOPE3算定準備開始</li> <li>●湖北工業グループ各拠点における再生エネルギーの導入推進(本社、海外工場で展開中)</li> </ul>	<WG開催> 計5回 <サブWG開催> 計10回
	環境配慮型製品の開発	●漏れ電流対策品ほか、省エネルギー・通信容量拡大に向けた製品開発を推進	
社会WG	ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン(DE&I)の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性管理職、社外取締役情報交換会を実施</li> <li>●福利厚生充実の一環として、フィットネス活動支援制度を設置</li> </ul>	<WG開催> 4回開催
	人財育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従業員向け、語学、業務スキルに関する研修プログラム強化</li> <li>●生産拠点での、多能工化、特殊技能教育実施</li> </ul>	
	従業員のウェルビーイング向上と労働安全の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スリランカへの洪水被害に対する支援を実施) 資格取得支援インセンティブ制度の導入</li> <li>●賃上げ率：5.2%、年間賞与支給月数：6.5ヶ月</li> <li>●有給休暇取得率：80.0%、男性育児休業取得率：100%</li> <li>●その他：従業員持株会制度、英語研修、人間ドックなど各種福利厚生制度の充実</li> </ul>	
	地域コミュニティへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育・文化（長浜曳山祭り他各種地域イベント支援、農業大学校支援など）</li> <li>●環境・生物多様性（山門水源の森保全活動ほか）</li> <li>●スポーツ支援（2025国スポ・障スポ大会支援支援、地元サッカーチーム支援等）</li> </ul>	
ガバナンスWG	経営の透明性・健全性の向上	●監査等委員会設置会社への移行によるガバナンスの強化	<WG開催> 1回開催
	サステナビリティ経営の推進	●各種整備状況の確認及び規程等の一斉見直しプロセスの構築	
	リスクマネジメントの強化	●各部門及びグループ共通の上位リスクの洗い出しと対応の検討	

## IV. セグメント別の状況（リード端子）

# 事業環境

アルミ電解コンデンサは、自動車向けの回復と生成AIの成長により回復局面入り

## 小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

## 市場動向・営業施策

### <自動車関連市場>

- 2024年後半の調整は一巡、中国EV市場が牽引して回復傾向が続いたが、日米欧におけるEVの普及停滞、競争激化により伸び悩み
- EVは停滞したが、HEV等全般的に新設計のECU向けにハイブリッドコンデンサを中心にリード端子の引き合いがグローバルに増加

### <生成AI/データセンタ市場>

- 日系コンデンサメーカー数社から生成AI向け製品の引き合いが増加、今後の売上増加に期待
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサ向けリード端子の引き合いが大幅に増加している

### <民生機器市場>

- 中国での景気停滞等により厳しい状況が続く

### <グローバル営業体制強化>

- 本社と海外生産拠点の連携強化、新商品リード端子のグローバル市場でのマーケティングを強化

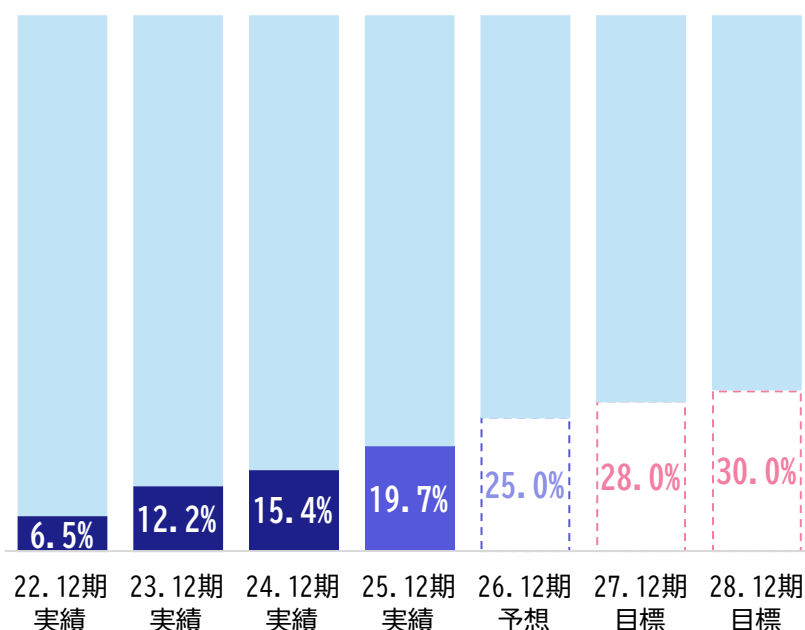
# 市場開拓による事業規模の拡大

## 車載関連市場向け及びAIサーバー向け新商品の売上増加

### 高付加価値製品の売上比率

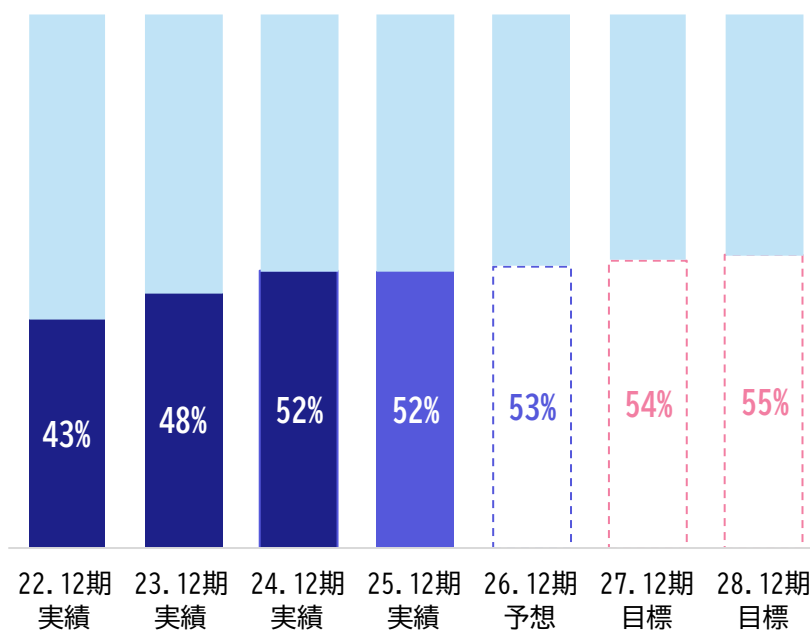


- ・バリレス、漏れ電流対策品の売上増加
- ・レーザー溶接技術品（ニッケルメッキ品他）の強化



### 自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場（駆動系）向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



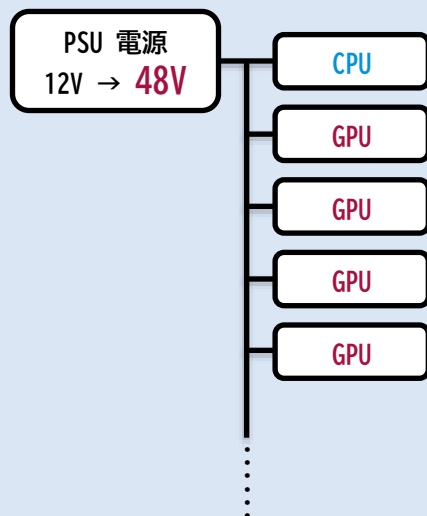
# 当社の経営環境と収益改善への取り組み

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/12期実績	2026/12期見通し
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞をさらに増強し収益力を改善（2025年年間生産比率KECD50%、KECS30%、KEM20%）</li> <li>➢ 引き続き歩留り・可動率改善、切替ロス削減を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2025年現在生産比率 KECD50%、KECS30%、KEM20%</li> <li>➢ OEE改善状況 2024年81.4%→2025年83.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本社工場で自動化・省人化を推進</li> <li>➢ 2026年OEE改善目標 87%(連結) <ul style="list-style-type: none"> <li>・調整不良削減</li> <li>・海外工場間での水平展開を強化</li> </ul> </li> </ul>
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海外自動車市場に向けての顧客サポート、マーケティングを強化</li> <li>➢ バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本社営業部門、海外拠点が連携して顧客の海外拠点訪問回数を増加</li> <li>➢ 樹脂コーティング、特殊化成、段階浸漬化成のサンプルを顧客仕様に合わせて提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ グローバルで受注増大を進める</li> <li>➢ サンプル評価を経て量産受注を強化する</li> </ul>
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ レーザー溶接新技術、量産品試作に向けて開発拠点を本社に移管</li> <li>➢ 漏れ電流低減リード端子の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 10月 デザインサンプル出荷</li> <li>➢ 融点が大きく異なるニッケルメッキに優先して取り組み</li> <li>➢ 樹脂コーティング品のラインアップ拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2026年2月、顧客仕様ニッケルメッキタイプのサンプル出荷開始</li> <li>➢ サンプルアイテム拡大と量産体制構築</li> <li>➢ 車載・生成AI向けに重点を置いた樹脂コーティング、特殊化成品の売上拡大</li> </ul>

# AIサーバ向け高耐圧対応リード端子のラインアップ拡大

電力効率や発熱対策のニーズが高まり、より高機能なアルミ電解コンデンサの需要が拡大

- GPU搭載数増加に対応するめ、電源が 12V から 48V に高圧化
- 将来的にさらなる高圧化も



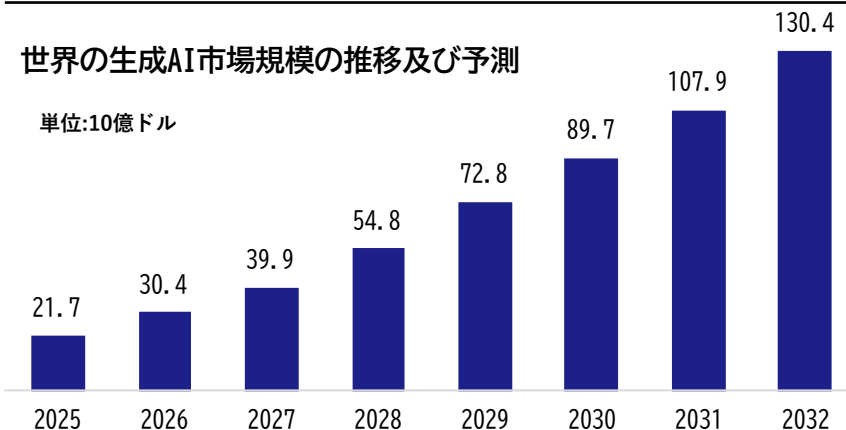
サーバー全体の低消費電力化や発熱対策のため、高効率化や高耐圧化が必須

- 63V・80V 対応のコンデンサの需要増
- 低ESR、高速応答性のニーズ
- アルミ電解コンデンサの搭載数量が大幅増加

求められるコンデンサ特性	高付加価値製品の採用拡大
漏れ電流特性	特殊化成、樹脂コーティング
高耐圧	特殊化成
高リップル（低ESR）	銅線リード化

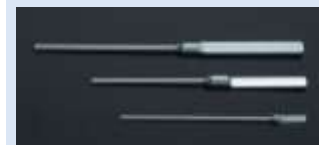
世界の生成AI市場規模の推移及び予測

単位:10億ドル



※ グラフは総務省『令和6年版 情報通信白書』より引用

樹脂コーティング製品



48V 給電に伴うコンデンサ耐圧要求 63V・80V の高耐圧化に対応したリード端子の提案推進

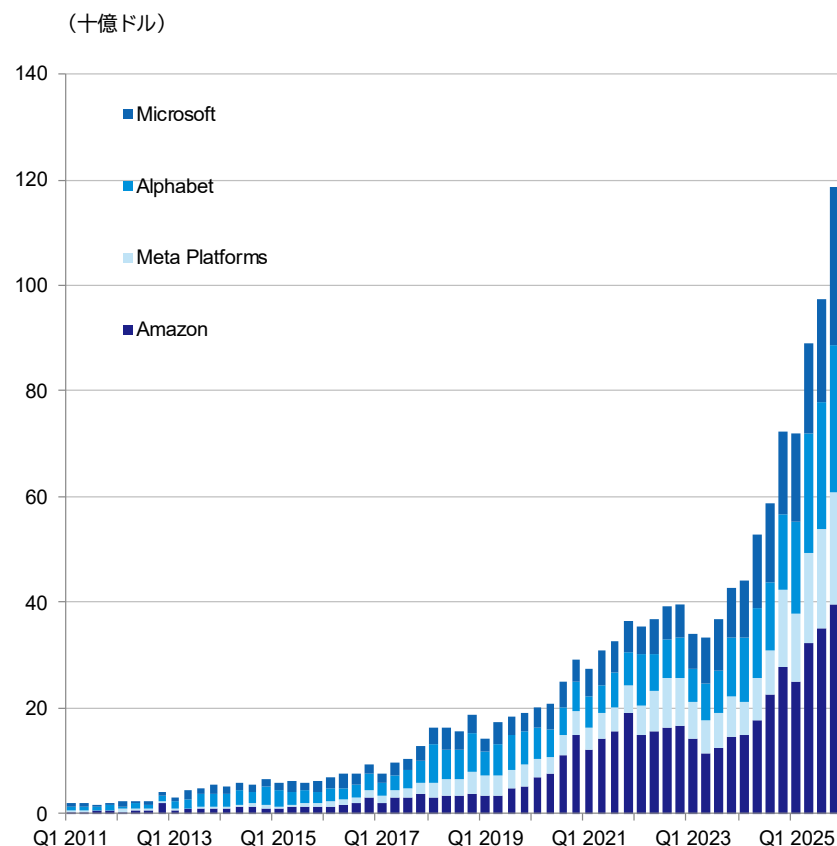


# V. セグメント別の状況（光部品・デバイス）

# 事業環境

生成AI/データセンタ向けに活発な投資が継続、海底ケーブルの大容量化に向けた技術開発が進む

## 米国クラウド事業者の設備投資



(出所：会社資料)

## 市場動向

- 海底ケーブル向け投資は引き続き増加傾向
- 多芯化に伴い、小型光アイソレータの売上が大幅増加
- 新技術関連、複合品及びワイドバンド対応製品は2026年から本格採用、モジュールは2027年からとなる予定
- AIサーバー用光トランシーバ市場向けにファラデー回転子の需要が大幅増
- マルチコアファイバー対応製品は2028年以降の需要顕在化を見込む
- 多芯化に向けて技術開発が多様化、全方位での開発を強化

# 当社の状況と収益改善への取組み

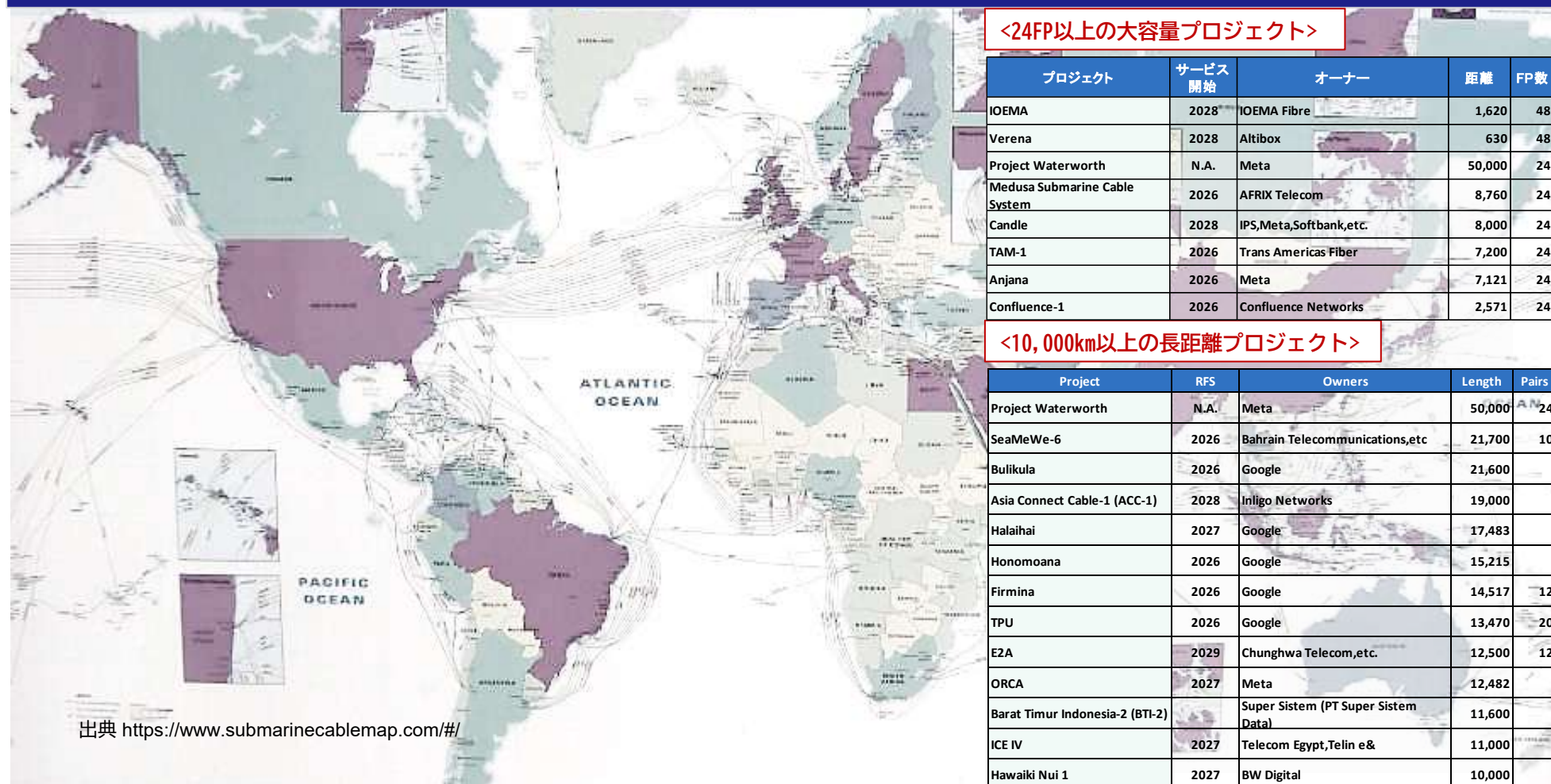
## 当社の経営環境

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/12期実績	2026/12期の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定</li> <li>● 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大</li> <li>● PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 複合品については開発及び評価完了、量産フェーズへと移行。</li> <li>➢ 小型アイソレータの採用顧客増加、2025年末現在の小型化比率は50%</li> <li>➢ 設備投資、開発計画見直し</li> <li>➢ PLZT成膜工程の生産性改善により単結晶ウエハの外販を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 複合品については2026年4月から販売開始、モジュール品については、2026年後半に評価完了予定</li> <li>➢ 小型アイソレータの生産増強（26年の販売比率は80%となる見通し）</li> <li>➢ 露光装置エッチング装置ほか老朽設備更新</li> <li>➢ 複数社からの引き合いあり、順次対応</li> </ul>
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半自動装置2号機を5月から立ち上げ、年度末に対象工程の80%を自動化</li> <li>● データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加</li> <li>● 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 半自動装置の立ち上げ完了、80%自動化を予定通り完了</li> <li>➢ 設備増強により生産能力大幅増強、光部品の売上は前期比約3倍に増加</li> <li>➢ 引き合い増加に対応して、生産能力増強に向け準備中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 半自動装置を活用し生産効率改善、生産能力拡大</li> <li>➢ 光部品結晶育成炉を増設、歩留り向上と併せて光部品の売上1.5倍を見込む</li> <li>➢ 来期以降の生産能力拡大に向けて引き続き準備を進める</li> </ul>

# 海底ケーブルネットワークの長距離化、大容量化が進展

\* 図中の各線が海底ケーブル

## 長距離海底ケーブルシステムの全体図



### <24FP以上の大容量プロジェクト>

プロジェクト	サービス開始	オーナー	距離	FP数
IOEMA	2028*	IOEMA Fibre	1,620	48
Verena	2028	Altibox	630	48
Project Waterworth	N.A.	Meta	50,000	24
Medusa Submarine Cable System	2026	AFRIX Telecom	8,760	24
Candle	2028	IPS,Meta,Softbank,etc.	8,000	24
TAM-1	2026	Trans Americas Fiber	7,200	24
Anjana	2026	Meta	7,121	24
Confluence-1	2026	Confluence Networks	2,571	24

### <10,000km以上の長距離プロジェクト>

Project	RFS	Owners	Length	Pairs
Project Waterworth	N.A.	Meta	50,000	24
SeaMeWe-6	2026	Bahrain Telecommunications,etc	21,700	10
Bulikula	2026	Google	21,600	
Asia Connect Cable-1 (ACC-1)	2028	Inligo Networks	19,000	
Halaihai	2027	Google	17,483	
Honomoana	2026	Google	15,215	
Firmina	2026	Google	14,517	12
TPU	2026	Google	13,470	20
E2A	2029	Chunghwa Telecom,etc.	12,500	12
ORCA	2027	Meta	12,482	
Barat Timur Indonesia-2 (BTI-2)		Super Sistem (PT Super Sistem Data)	11,600	
ICE IV	2027	Telecom Egypt,Telin e&	11,000	
Hawaiki Nui 1	2027	BW Digital	10,000	
Africa-1	2026	G42Mobily,etc	10,000	8

※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

# 市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

海底ケーブルの多芯化の進行が加速、複合品・モジュール品の開発要求が増加

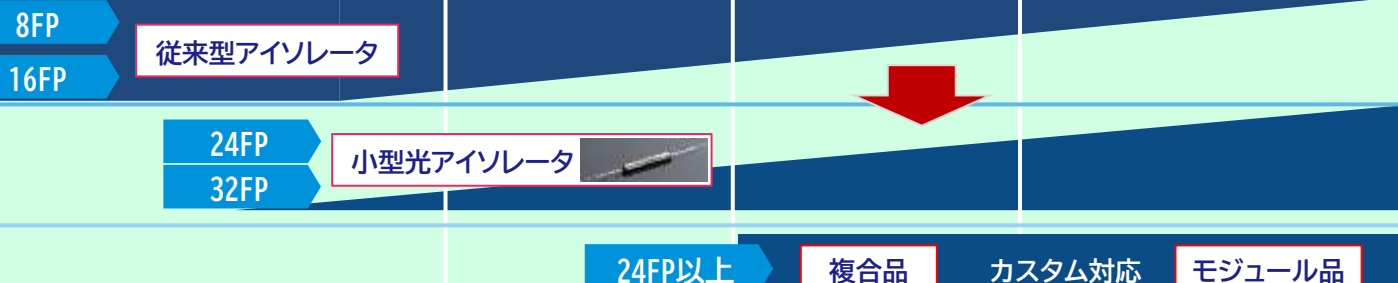
情報通信容量拡大に伴う  
海底ケーブルの進化

2020年 2025年 2026年 2027年 2035年

平均ファイバーペア数

8FP 16FP 24FP 32FP以上

光アイソレータ・周辺  
部品の小型化、複合化



ワイドバンド化による  
光ファイバー毎の  
データ伝送容量の拡大

Cバンド (1530nm~1560nm)

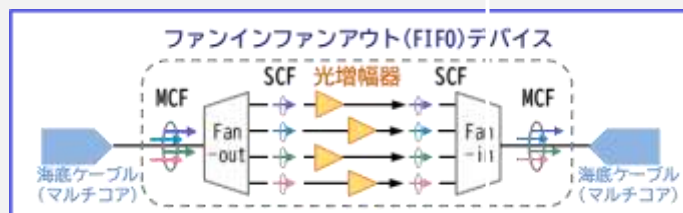
広帯域対応光アイソレータ

Cバンド (1530nm~1560nm)  
+  
Lバンド (1565nm~1610nm)

海底ケーブル  
マルチコアファイバ

MCF (2コア)

MCF (4コア)



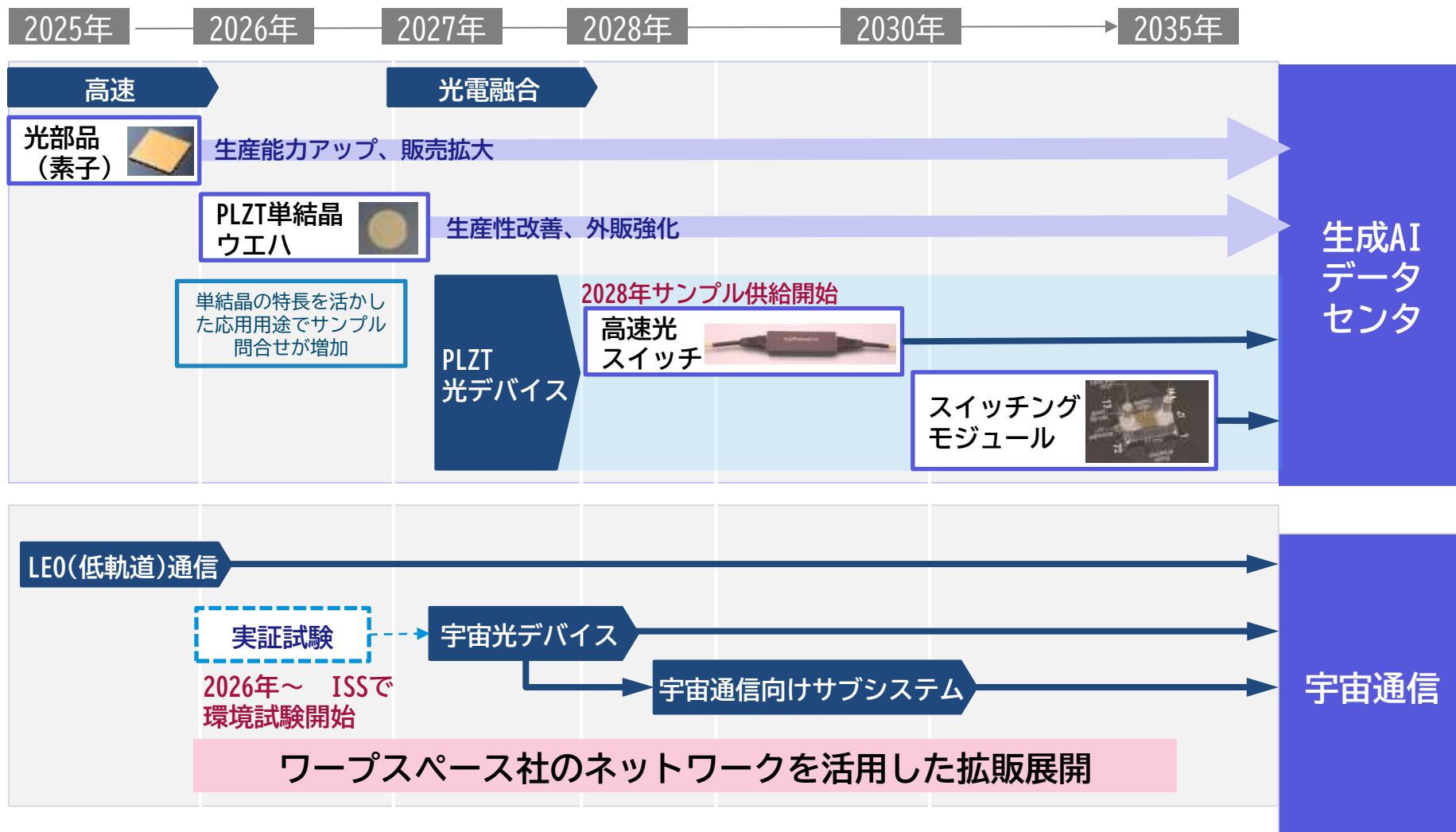
FIFOデバイス

MCF光アイソレータ

MCF光フィルタ

# 市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

PLZT単結晶ウエハの販売を開始、光電融合技術の進化に向けて大手通信機器メーカーの研究開発部門からの引き合いが増加

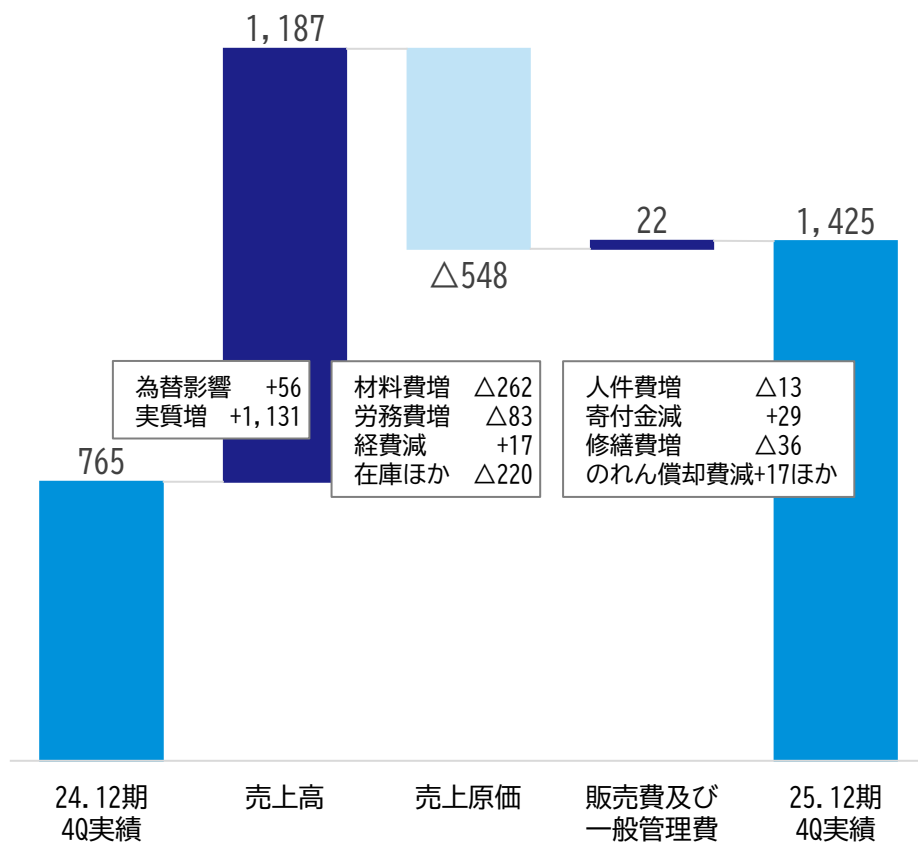


## VI. 参考情報

# 営業利益 4Q(10~12月)の増減要因

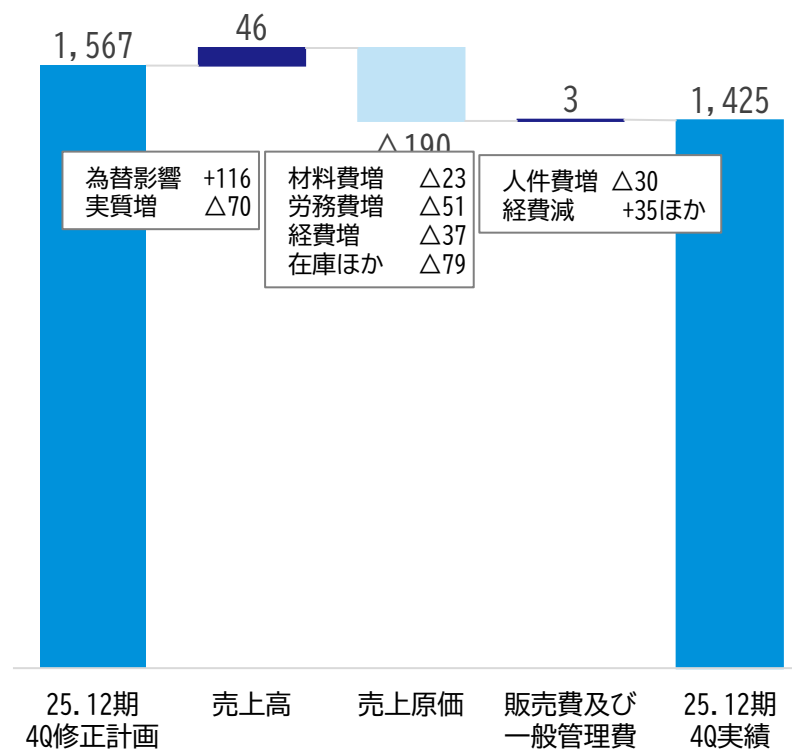
前年同期比

(単位：百万円)



修正計画比

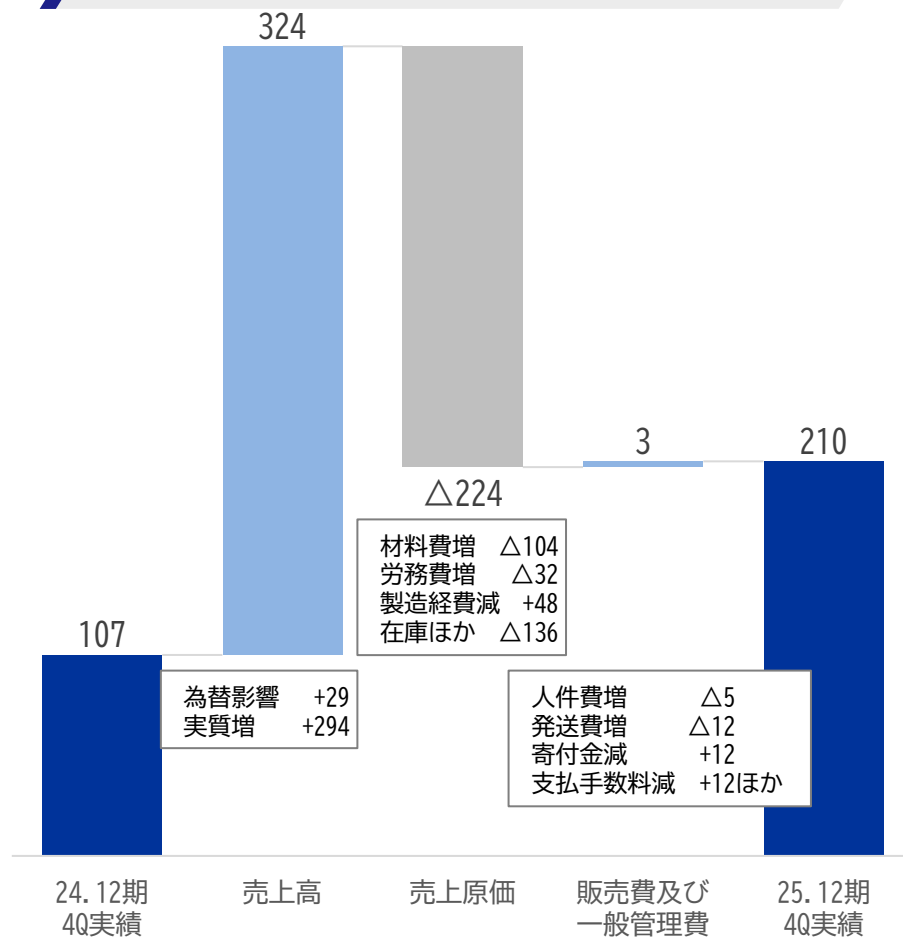
(単位：百万円)



# 営業利益 4Q(10~12月)の増減要因

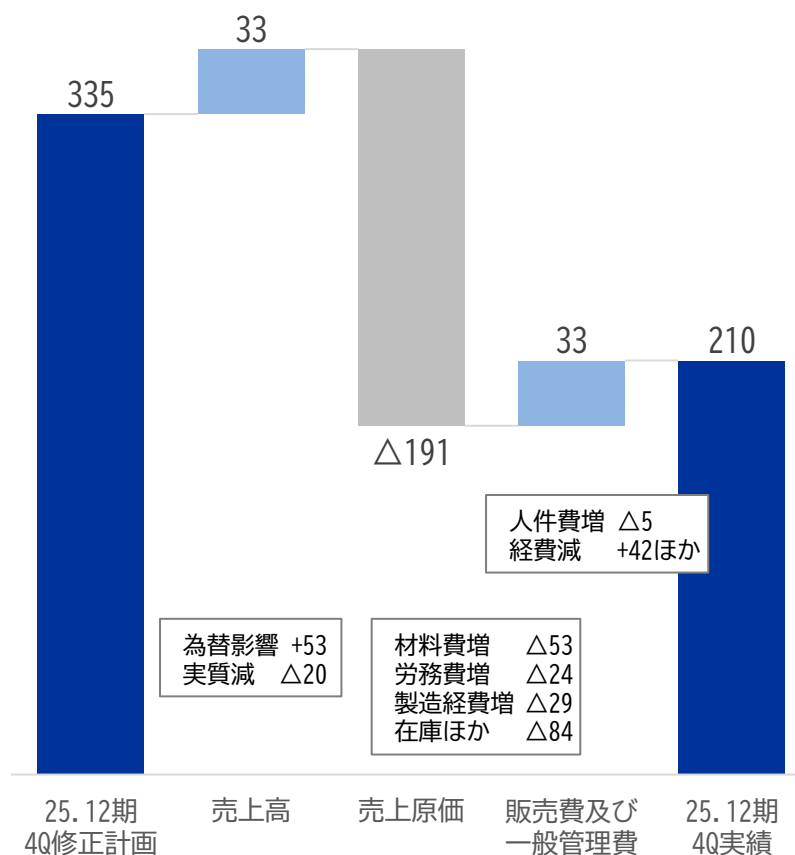
前年同期比

(単位：百万円)



計画比

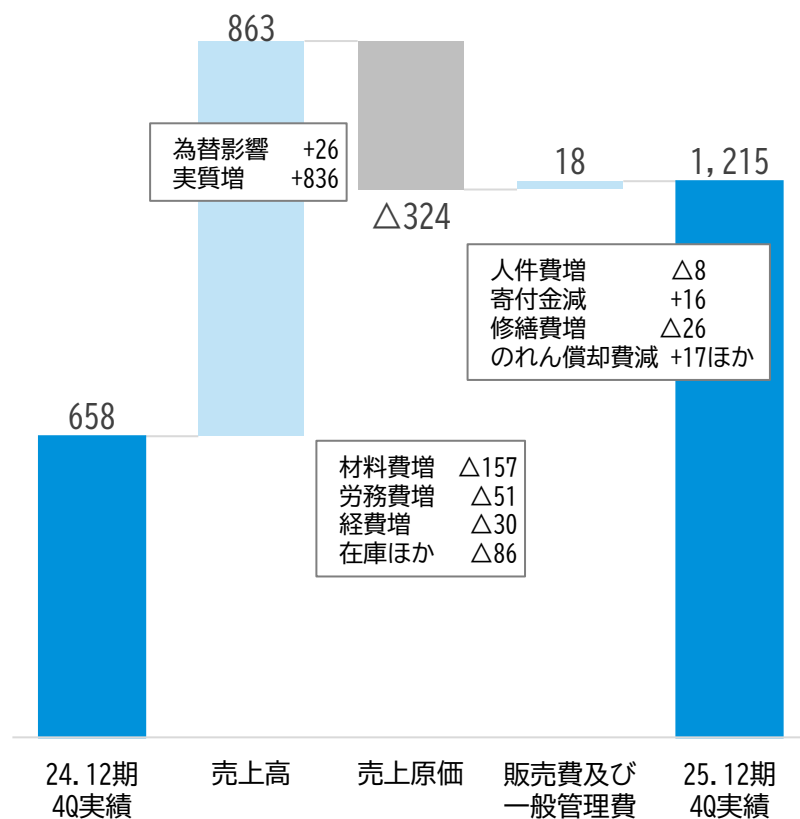
(単位：百万円)



## 営業利益 4Q(10~12月)の増減要因

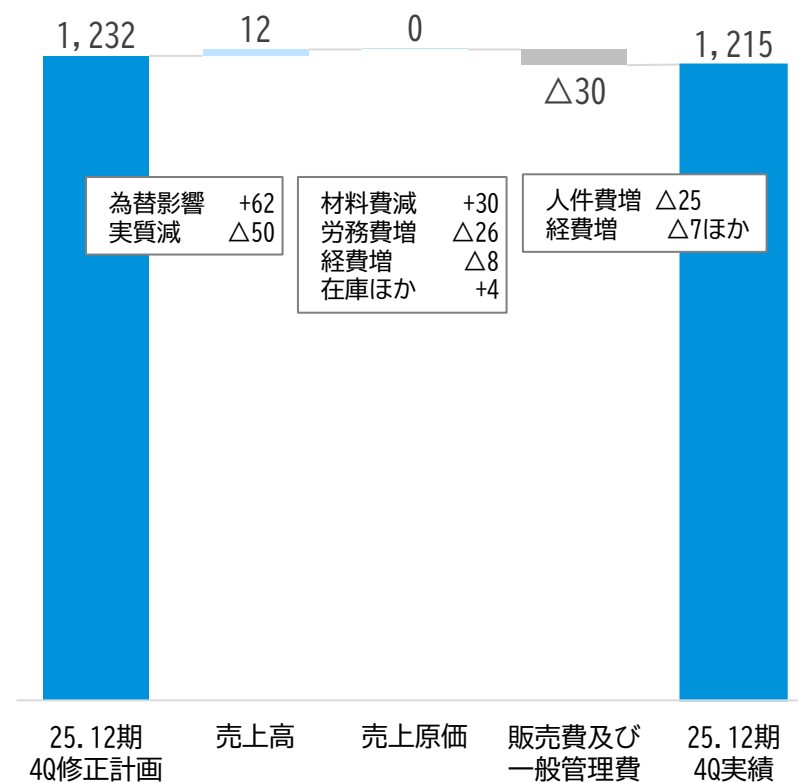
## 前年同期比

(単位：百万円)



## 修正計画比

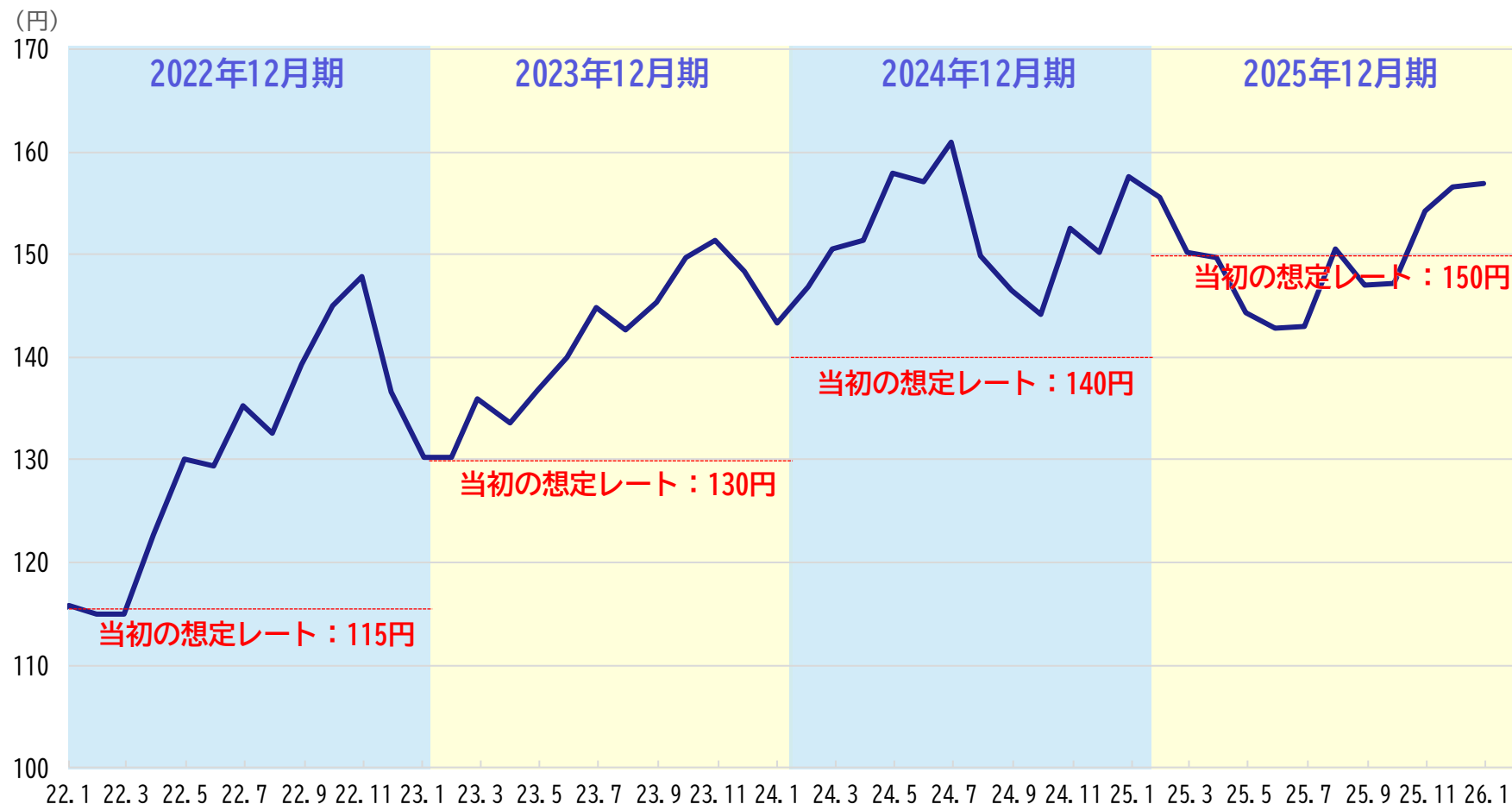
(単位：百万円)



# 2025年12月期(4Q累計)の事業環境

2025年の期中平均レートは149.62円/USD、2026年想定レートは150円/USD

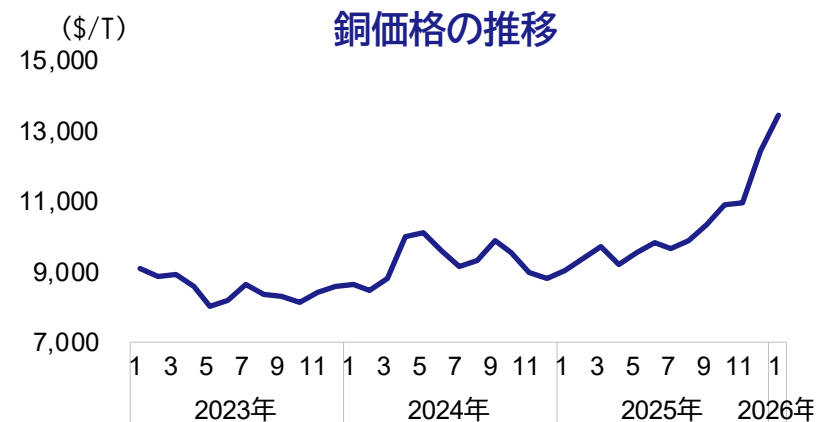
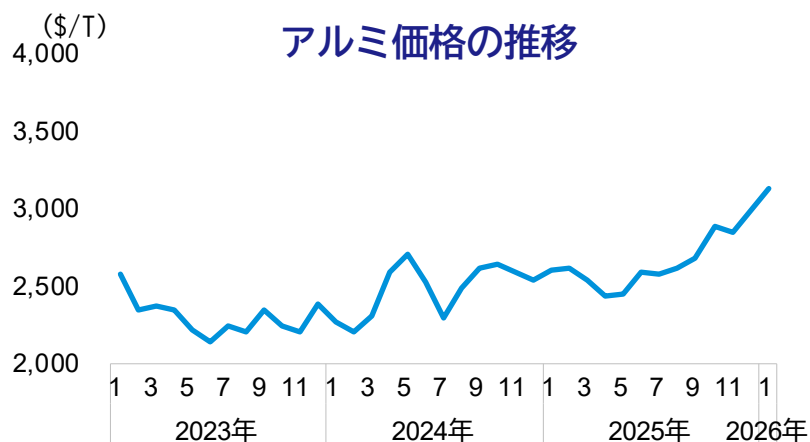
USD/JPYトレンドグラフ



# 外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は上昇傾向、原則3か月後に価格転嫁

## 非鉄金属相場（LME）の推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

---

湖北工業株式会社 広報・IR部

E-mail [ir@kohokukogyo.co.jp](mailto:ir@kohokukogyo.co.jp)

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217